

第25号  
2013.2

# あきた 留学生交流



「秋田の農家民泊」に参加した留学生、日本人学生、受入農家のみなさん

秋田地域留学生等交流推進会議  
Akita Inter-regional Council for Promotion of Foreign Student Exchange

## C O N T E N T S

### 1 ヒアリングは難しい

秋田魁新報社 代表取締役社長 小笠原 直樹

構成員大学からの寄稿

### 2 着実に進み行く国際交流の輪

秋田大学国際交流センター 西田 文信

### 留学生からのメッセージ

#### 3 絆

ノースアジア大学経済学部経済学科4年  
シオーネ・マヌ・ヴェア (トンガ)

#### 4 万巻の書を読み万里の路を行く

秋田県立大学  
総合システム科学専攻博士後期課程2年  
姜 東暁 (中国)

#### 5 秋田の未来へ繋がりたい

国際教養大学専門職大学院  
グローバル・コミュニケーション実践研究科  
発信力実践領域1年  
リー・チーヤン (マカオ)

#### 6 ありがとう、秋田！

秋田工業高等専門学校物質工学科5年  
タクタ エルランガ (インドネシア)

#### 7 秋田に生活・成長

秋田大学工学資源学部材料工学科3年  
黄 アテイ (中国)

### 8 留学体験寄稿～秋田から世界へ～

#### 私の留学 in 韓国

ノースアジア大学法学部観光学科4年  
石郷岡 サヤカ (日本)

### 9 卒業予定者からのメッセージ

#### 私の大学生活

秋田大学工学資源学部機械工学科4年  
徐 文徳 (中国)

### 10 留学生交流事業

第三の故郷を見つける農家民泊

### 国際交流団体等の活動紹介

#### 11 あきたのファミリー

(財)秋田県国際交流協会 (AIA)

#### 12 Think globally, act locally

— より深くつながることを —

秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

#### 13 外国人による日本語スピーチコンテスト & 民族衣装でこんにちは

秋田ユネスコ協会

#### 14 毎年留学生との様々な交流事業を実施、 今年度は日中友好中学生卓球交流派遣、 女性委員会ブロック交流会議を開催

秋田県日中友好協会・県日中女性委員会・秋田地区日中友好協会

#### 15 留学生との交流と支援を中心に活動

秋田モンゴル友好協会

#### 16 異文化交流の輪を広げよう

国際交流オープンクラス

### 17 留学生交流事業の紹介

ノースアジア大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校、  
国際教養大学、秋田大学

### 19 平成24年度国際交流事業の実施状況

### 23 留学生関係資料

秋田県内留学生等の受入れの推移 (各年10月1日現在)  
住居形態別留学生数 (平成24年10月1日現在)  
秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況 (平成24年10月1日現在)  
日本全体の留学生数の推移 (各年5月1日現在)  
出身国 (地域) 別留学生数 (平成24年5月1日現在)  
地方別・都道府県別留学生数 (平成24年5月1日現在)

### 27 平成24年度秋田地域留学生等交流推進会議

推進会議議事要旨、運営委員会議事要旨  
秋田地域留学生等交流推進会議要項  
秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会要項  
秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ  
秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿  
秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員名簿  
秋田地域留学生等交流推進会議運営による資金貸与制度

### 裏表紙

推進会議へのご意見・情報提供について

# ヒアリングは難しい



秋田魁新報社

代表取締役社長 小笠原 直 樹

「課長いる？」返ったこたえは「いません！」  
一。かつてのサラリーマン川柳にこんな作品があった。「居る」と「要る」をもじった1句。面白いには面白いが、サラリーマンにとってはちょっとペーソスも漂う。自分もその一人だったが、子どものころ、唱歌「ふるさと」の歌詞の冒頭「うさぎ追いし」を「うさぎおいしい」と理解していた人は多いのではないか。日本語のヒアリングは難しい。

うさぎにちなんで言えば、高校生のころ、「脱兎（だっと）のごとく」という表現を初めて聞いたとき、「だっと」の意味が分からず、みんなが一斉に、「ダァー」と逃げ出す光景を想像したものだ。友人の中には「薬剤師会」を「やくざ・医師会」だと思い込んでいた人もいるから、それよりはやや、ましかもしれない。

日本語に限ったことではないかもしれないが、言葉はかくも複雑だ。海外からきた留学生は日常生活の中で「？」と思うことが多いのではないか。まして地方には方言がある。秋田弁で話されたときなど「???」の連続かもしれない。さぞ、大変な思いをしていることだろう。

「人間は言葉ではない、ハートだ」としても、自分の考えや気持ちを相手に伝えるために、言葉を正確に聞き取ることは大切だ。誤解を防ぎ、

相互理解を深め、親密さを増すには不可欠だ。

片言すら外国語を話せないし、ましてやヒアリングもできない身としては、指摘するのとはばかれるが、語学教育の充実が国際化の時代を生き抜く必須条件。早ければ早いほど良いというわけではなからうが、本県もその充実を力を入れなければならない。正しく秋田を知ってもらうためにも。

会社の先輩から聞いた話を最後に一つ。以前、ある酒席で外国からの客と会食していた時のこと。その外国人が、飲んでいた酒を絶賛して銘柄を聞いたそう。お酌をしていた芸者さんが味を確かめながら、「刈穂でねえー」と秋田弁丸出しで答えた。すると、その外国人は「オー、カリフォルニア」と即座にそう聞き取り、その後も感動しながら杯を重ねたそう。この手の誤解を防ぐためにも、語学教育の充実は欠かせない。

## 着実に進み行く国際交流の輪

(秋田大学国際交流センター 西田 文信)

国際交流は本学が力を入れている取り組みのひとつである。将来にわたって国際的レベルの教育・研究・社会貢献活動を行う決意を表し、(1)国際的な水準の教育・研究を遂行する、(2)地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与する、(3)国の内外で活躍する有為な人材を育成する、の3点を基本理念に掲げている。近年は国際交流協定校の増加や留学生数の増加など、国際交流の輪は着実に進展を続けている。

平成24年度は、新留学生オリエンテーションにはじまり、国際交流センター長と留学生との懇談会、留学生等交流実地見学旅行（平泉・花巻・遠野）、もちつき大会、留学生スキー研修（太平山スキー場）、上桧木内の紙風船上げ＆農家民泊、定期開催の留学生とランチなどの行事を開催した。

海外の大学との交流協定としては、フライベルク工科大学、王立ブータン大学、バンドン工科大学、フィリピン大学、チュラロンコン大学と大学間・部局間協定を締結した。

平成24年11月8日に本学にてシンポジウム『ブータンに学ぶ「幸福学」』を開催した。本シンポジウムは、平成24年7月6日に王立ブータン大学と国際交流協定を結んでからの、交

流第一弾の取り組みであった。王立ブータン大学から ルンテン・ギャツォ言語文化学院学長、ネザン・ワンモ王立健康科学院産学連携学部長及びドルジ・ティンレー研究・渉外担当理事の3名を招聘し、ブータンの進める国民総幸福（GNH）を通じて、「秋田の幸福」を考えるきっかけ作りを目指した。シンポジウムは一般市民を含む100名以上参加者があり幸福について深く考える契機となった。王立ブータン大学一行は、シンポジウムの他、秋田市長表敬訪問、附属病院及び保健学科視察・交流等を行った。また、シンポジウムに合わせ、ブータン展も同時開催し、ブータンで撮影した写真や民家の再現パネル、民族衣装を展示した好評を博した。学長及び国際交流センター長との懇談では、王立ブータン大学と秋田大学との今後の学術交流・共同研究についての協議を行った。

今後の交流への進展としては、平成25年2月に医学部保健学科の教員2名が王立ブータン大学を訪問し、関係部署の視察・講義を行う予定であり、今後も交流が活発となることが期待される。特に、医学、看護の分野はブータン王国では比較的遅れている分野であるため、本学の果たす役割は極めて大きいと考える。



王立ブータン大学との協定締結（2012年7月）



AUEP（秋田大学国際交流体験プログラム）  
参加学生の修了式にて（2012年8月）

# 留学生からのメッセージ



きずな  
絆

ノースアジア大学  
経済学部経済学科4年

## シオーネ・マヌ・ヴェア (トンガ)

私が秋田に初めて来日したのは約7年前、2006年4月に明桜高校に入学しました。高校時代の3年間は日本語と日本文化を学びました。高校で一番大変だったことは、話すことと書くことでした。私はラグビー部に入部し、たくさんの友達を作り、自分自身の視野を広げることができました。そして、2009年3月、無事に高校を卒業しました。

同年4月にはノースアジア大学に入学しました。大学に入って感じたことは、高校のころと全く違う自分がいることです。大学では難しい漢字も覚えなくてはなりません。私は本当に漢字を書くことに自信がありませんでした。しかし、大学の先生や留学生の友達がいつも優しく教えてくれました。そのおかげでだんだん自分に自信を持つことができるようになり、秋田での生活が楽しくなりました。

秋田は外国人に対してすごく親切なところです。他の県に行ったことがないのでよく分かりませんが、秋田の人たちはみんな心優しいと感じます。私は秋田に来て、これまで持っていた

日本のイメージが大きく変わりました。

秋田の魅力といえばやはり「自然」、そして「竿灯祭り」です。私は大学3年と4年の時に竿灯祭りに参加しました。とても思い出深く、参加させてもらったことに感謝しています。

大学2年の時に経験した特に忘れられない思い出があります。2011年3月11日に発生した東日本大震災です。秋田県内も停電になり、外部とも連絡が取れなくなりました。光もなくなり真っ暗な中、不安で泣き出す人もいました。でもみんなで励ましあい、絆をさらに深めることになりました。このときのことはいまでもとても感謝しています。

私は今年3月に大学を卒業します。日本に来て、このような自然豊かで人情味あふれる秋田で学生生活を送れたこと、本当に本当に良かったと思っています。これからは社会人として仕事とラグビー(秋田ノーザンブレッツ)を頑張っていきたいと思いますので、どうか応援よろしくお願いします。

今までありがとう！(Malo aupito!)





## 万巻の書を読み 万里の路を行く

秋田県立大学  
総合システム科学専攻博士後期課程2年

姜 東暁 (中国)

留学する前、日本の東北地方に対するイメージはぼんやりしていました。強いて言えば、川端康成の小説『雪国』の冒頭の『国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。』の一文のような世界を想像していました。

4年前に、中国の大学を卒業し、秋田県立大学大学院進学のため、山が色づく美しい季節に秋田空港に着いて一番に感じたのが、故郷とは違う新鮮で澄んだ空気でした。冷やかで清々しい空気を吸いながら周りを見渡し、期待感はもちろんですが、なんとなく不安感も溢れていたのを今でも覚えています。

秋田へ留学にきてから、新しい学生を迎えたり、卒業する学生を見送ったりしているうちに、気がつけば、今の秋田県立大学の留学生の中でもベテランになりました。

これまでを振り返り、留學生活で得られるものを一言でまとめると、『万巻の書を読み、万里の道を行く』です。

来日したばかりのときは、日本語も研究も何もうまくできず、さまざまな壁にぶつかったのはとても辛かったです。しかしながら、研究室の先生方に助け船を出してもらい、日本国内及び国際学会へ何度か参加させてもらったことにより、言葉と研究の壁を少しずつ乗り越えることができました。

また、大学のおかげでイベントや交流活動などいろいろな体験もさせてもらい、平板で味わい

のない研究生活にメリハリがつかしました。春の角館の桜、夏の大曲の花火、秋の法体の滝の紅葉はもちろん、きりたんぼや、ハタハタの秋田郷土料理などすべてが、一生の思い出になりました。これらは秋田に留学しないと味わえない体験です。

そして何よりも、秋田女性の会『わびえ』のメンバーの1人、国松さんとの出会いです。80歳以上とは思えないほど元気な彼女との月1、2度のやり取りは3年以上続いており、たくさんの元気をもらっています。国松さんは私にとって、秋田弁を喋るもう1人のおばあさんのような存在になりました。

周りの方々から手を貸してもらったことにより、秋田で4年間の豊かな留學生活を送ることができました。ここで身につけた知識、技術や日本文化の体験、日本人との絆を深めたことは、1人前の女性研究者を目指す私のこれからの人生を切り開く、大きな財産になることと信じています。





## 秋田の未来へ繋がりたい

国際教養大学専門職大学院  
グローバル・コミュニケーション実践研究科 発信力実践領域1年

リー・チャーヤン (マカオ)

私は2009年から2010年まで、交換留学生として秋田の国際教養大学に一年間留学していました。その一年間、いろいろな国の人と出会い、異文化の理解をすることを学びました。また、竿灯祭りやかまくら祭りを始め、日本の伝統文化も初めて体験しました。しかも、授業以外でいろいろな学校を訪問しに行き、子どもたちと交流することで友達もいっぱい作りました。それらの活動を通して、日本人の情熱と日本の魅力を感じ、秋田が憧れの所となりました。

一年間の留学生活が終わってから、東日本大震災が起り、東北が大きな被害を受けました。私は当時マカオにいたので、ニュースを見てびっくりして、瞬時に秋田の人たちを心配しました。自分が好きなところがそんな被害を受けて、どうしても秋田に戻らなければならないと決心しました。秋田の人々とまた会いたくて、日本文化をもっと深く体験したくて、秋田の景色を見たくて、再留学のことを決めました。2012年の秋に秋田に戻ってきて、国際教養大学大学院の発信力実践領域プログラムに入りました。

私は将来、ジャーナリストになりたいです。大学で、外国人のための日本語授業だけではなく、

日本と世界各国の関係のことや異文化の重要性などを勉強し、その知識の応用の方法も学んでいます。授業以外の時間はいろいろなボランティア活動や地域大学の交流会に参加しています。交流会で、他の大学生や教授たちと授業で学んだ知識を交換できて、いろいろな人たちの視点や考え方も知ることができました。実際の交流会では、いろいろな人と出会って異文化の受容をすることを学びました。さらに、本で学んだ知識も現実で活かしました。それらの活動は将来ジャーナリストになりたい私にとって、とても貴重な機会だと思います。とても感謝しています。

秋田の生活で、最も印象深かったのは雪ときりたんぽです。秋田の雪はとても凄いいし、どこかへ行かなくても、学校で友達と雪合戦ができて、雪だるまも作れます。大変楽しかったです。また、秋田の冬は非常に寒いので、雪を見ながらきりたんぽを食べるのは一番楽しいことだと思います。

私はもし再選択するならば、きっともう一度秋田の国際教養大学を選びます。今までいろいろな人たちに助けてもらって、心より感謝を申し上げます。これからは、自分の力で、秋田の良いところを通して日本の姿を海外の人に知らせることが目標です。秋田の未来へ繋がりたいです。



新秋田県立美術館アートスクールに参加



12月14日の当会議懇親会にて



## ありがとう、秋田！

秋田工業高等専門学校  
物質工学科5年

### タクタ エルランガ (インドネシア)

小さい頃から科学、特に生物と化学の様々な疑問を追究していくことが好きで、将来は科学者になりたいと思っていました。現在、様々な環境問題を抱えている世界のために、社会を支えるものを発明し、役に立つ人間になるという夢を持ちました。それを叶えるために専門的、科学的、国際的知識を得ることが重要だと分かってきました。そこで、高校を卒業してから、技術的に世界トップだと言われている日本へ留学することを決めました。

2010年4月から、秋田高専の物質工学科3年次に編入学しました。ここで講義を受けるだけでなく、自国インドネシアでは見たことがない器具を使って様々な実験を楽しんでいます。現在、バイオエタノールが利用されているワイン酵母を中心として、機能性のポリマーを使いアルコールに強い酵母を目指して研究を行っています。バイオエタノールはバイオマス、例えば、トウモロコシやサトウキビから製造されるエタノールであり、大気中の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)量を増やさないという利点を持ち将来エネルギー源として大いに期待されています。しかし、酵母はアルコールに対して弱く、アルコールを多く生産することで新たな問題が生じます。研究では、エタノールに対する強い酵母を作り、そうすることでバイオエタノールにおけるエタノールの生産の効率を上げることができます。

高専では勉学のほかに先生方、同級生、先輩、寮生、茶道部員と多くの交流をし、日本の文化

も学んでいます。例えば、初めて日本人の友達ができるとき、試験が終わってから、みんなでカラオケに行きました。自国ではカラオケにあまり行かなかったのですが、日本では、カラオケでみんなと一緒に歌ったりするのが当たり前だと言うことが分かり、今はカラオケへ行くことが大好きになりました。

インドネシアは熱帯の国ですから春も秋も冬もありません。ですから、秋田に来て初めて雪を見ました。その時、夢かと思うほど本当に嬉しかったです。そして、人生初の春の桜も秋の紅葉も見れて大変感動しました。

秋田での生活は、三年目に入りました。今年度、高専を卒業したら筑波大学に編入学することになりました。この三年間は短かったですが、今までの人生で最も価値がある時間だと思えます。秋田に来ることができたことを本当に感謝しています。

秋田、大好きだべ！







## 秋田に生活・成長

秋田大学  
工学資源学部材料工学科3年  
**黄 アテイ (中国)**

雪が天空からひらひらと落ちてきます。秋田はまた白の世界に染まられました。いつものように綺麗、いつものように平静です。私はこの綺麗なところに来たのは3年目になりました。3年間学習と生活を経て、秋田が深く好きになりました。

2008年、私は中国の湖南省から日本に参りました。岡山の日本語学校で日本語を勉強した後、2010年4月、秋田大学に入って、多彩な大学生活が始まりました。最初に、日本語、生活、学習などさまざまなことに慣れず、本当に大変でした。しかし、周囲の優しい先生と友達が助けてくれたので、私は一番困難な時期を無事に過ごすことができました。この間に、仲良い友達もいっぱい作りました。

学習と生活に慣れました後、私は学習以外の楽しみを体験することが始まりました。秋田に来る前に、私はずっと比較的熱いところに生活していました。雪を見たことがほぼありませんでした。秋田で綺麗な大雪を見た時、本当に嬉しかったです。それ以外では、学校の留学生活動で、非常に面白かった田沢湖スキーも参加しました。スキー中、私は何回も転倒しましたが、真っ白の山中で滑ることは一生に忘れない記憶です。

私は日本の伝統文化が大好きです。例えば、日本の伝統な服である和服は簡単な裁断で女子の美しさを完全に表して、非常に綺麗です。いつか、和服を着ることが私の一つの夢です。日

中友好協会のおかげで、私は茶道、ようふくなどの交流活動に参加してきました。有名な、おいしいお茶を召し上がり、綺麗なようふくを着たのは結構面白かったです。

餃子って、中国の名物と言えます。日本もありますが、揚げ餃子が多く、水餃子がほぼないです。私は料理を作ることが大好きなので、日本の友たちと一緒に水餃子をよく作りました。寒い冬に、仲良い友達と一緒に暖かい水餃子を作って食べるのは最高です。

秋田の皆さん、優しく助けてくれて、素晴らしい生活を体験させて本当にありがとう。





## 私の留学 in 韓国

ノースアジア大学  
法学部観光学科4年

石郷岡 サヤカ（日本）

### ・留学するきっかけ

私が通っていた高校には韓国に姉妹校があった。私が1年生の時、クラスに韓国人留学生が来た。その時出会った韓国人の友達と「もっと仲良くなりたい」「韓国語で話してみたい」と思うようになったのが韓国語を勉強し始めたきっかけだ。日本でも韓国語の勉強は出来るが、韓国の文化や伝統を直接自分の目で見てみたいと思い留学しようと思った。

### ・留学を通して

初めての留学ではなかったが、長期間両親と離れて暮らす事が無かったので不安もたくさんあった。ホームシックにもなり「秋田に帰りたい」と思う事も度々あった。しかし、日本人や韓国人の友達に助けられながら1年間の留学を終える事が出来たと思う。

語学堂（留学生が韓国語を勉強するところ）では、毎日韓国語で授業が行われ、ついていくのが必死だった。朝の9時から13時までの授業で、そのあとは友達とその日習ったところの復習などをした。休日は、様々な国の友達とショッピングなど色々な所に出かけた。友達と話していると、韓国人の方に「あなたの韓国語の発音きれいね。韓国人みたい。」と言われた。韓国人の方に発音がきれいと言われ、とても嬉しかった。そんなに、韓国語の発音に自信があった訳ではなかったが、このことで自信がついた。

クラスの友達は皆とても仲が良く、月に1回はみんなでご飯を食べに行ったりした。それぞれの文化が違うので、意見が食い違ったりした時もあったが、互いにそれぞれの文化を理解し受け入れようとしていたと思う。最後の授業が終わり、

フランス人の友達から「サヤカと同じクラスになって本当に良かったよ。サヤカのおかげで授業がとても楽しかった。ありがとう。」と言われたことが今でも心に残っている。私はその友達と仲が良かったが、その友達が私の事をこんなにも思ってくれていたと思うととても嬉しかった。私は、この1年間たくさんの思い出が出来、たくさんの経験が出来たと思う。一番は、かけがえない友達が出来た事である。韓国語の勉強が大変でくじけそうになった時や色々悩んでいる時、いつも友達が側に居てくれた。そんなかけがえない友達が出来て私は嬉しく思う。今でも日本人の友達とはメールをしたり、一緒に韓国旅行をしたり、遊びに行ったりしている。外国に住んでいる友達はFacebookなどでお互いの近況報告をして今でも交流が続いている。私の事を気にかけてくれたり、元気？と心配してくれる友達が居て私はとても幸せだ。これから先も、ずっと世界中の友達と交流していきたいと思う。





## 私の大学生活

秋田大学  
工学資源学部機械工学科4年

徐 文徳 (中国)

光陰矢の如し。あっという間に秋田大学での留学生活はもう4年間になりました。秋田に来たばかりの時、新しい環境に慣れるのか、ちゃんと勉強できるのか、楽しく大学生活を過ごせるのかなど、様々な心配がありました。4年間素晴らしい留学生活を過ごすことができました。後わずか一カ月後に私は秋田大学を卒業して日本の企業に入ります、私の経験を皆さんに分かち合いたいと思います。

せっかく日本に留学に来たのだから勉強だけでは足りないと思い、日本人の生活、社会のことも勉強したいと思い、自分なりの大学生活の過ごし方を選びました。私は学校勉強のほかに大学附属図書館のサービス担当やホテルの調理スタッフなどいろいろなアルバイトを経験しました。アルバイトを通して日本のサービス業の厳しさ、日本人の食習慣などが良く分かりました。もちろん学校でも日本人の学生と友達になっていろいろな勉強になると思いますがやはり職場での体験は本当の社会勉強になるのではないかと思います。

また、私は「働くとは」というテーマを持っていろいろな日本人と話したくて、秋田から日本の最北端（北海道稚内）までヒッチハイクをしました。往復で計34組50人ほどの方々と出会うことができ、日本人の人生観と仕事に対する考えかたを調べました。この事から私は様々な面で身心的に鍛えることができました。

他にも私は春に山登り、夏に海水浴、秋にドライブ、冬にスノーボードいろいろな楽しい活動をしました。もちろん大学生活で遊びばかりではなく、学業を主にして計画的に遊べば最高の留学生活になるのではないかと思います。

最後に、この素晴らしい留学生活を与えてくれた秋田大学、大学の皆さんに心から感謝を申し上げます。



## 第三の故郷を見つける農家民泊

秋田地域留学生等交流推進会議では、「第三の故郷を見つける農家民泊」と題し、秋田県仙北市西木町において4度目となる、秋田県内の留学生や日本人学生と地域農家の方々のグリーン・ツーリズムを通じた交流を行いました。

本事業では、2回の農業体験プログラム（農業体験ツアー、収穫感謝祭ツアー）と農家の方によるミニレクチャーを開催しました。11月3日、4日の「農業体験ツアー」では各農家に分かれて、農作業と農家民泊を体験。農作業では、栗拾い、小豆の選別、民芸品作り、各言語による民宿紹介ポスター作りを行いました。当日は雨だったにもかかわらず、様々な農作業や日本の遊びを経験させてもらい、充実した秋田での農業体験となりました。また、そば打ち、きりたんぼ、ゆべしその他、様々な料理作りを手伝い、参加した留学生らは秋田の食材を使った農家さんのアイデア料理に感動していました。2日目は各農家で特製料理を数品ずつ持ち寄り、クリオンで交流会を開催。バイキング形式で各グループの料理をいただきましたが、ある留学生は「他グループの料理も美味しいけど、おばあちゃんと一緒に作ったうちのグループの料理がやっぱり最高!」と話しており、すっかり農家さんの料理の虜となっていました。その後は、二日間の農作業体験をポスターにまとめ発表し、それぞれ農作業中の失敗を劇にして紹介したりと個性的な発表となりました。

12月1日の「収穫感謝祭ツアー」では同メンバーでの再会を果たし、参加した留学生にとってほぼ初めてとなる餅つき体験の他、アルバム作成を行いました。アルバムは農業体験ツアーの写真を用いて、時間をかけ心をこめて作成し、お世話になっ

た農家さんへプレゼントしました。各グループで様々なアイデアや思いが込められた、オリジナル溢れるアルバムに仕上がりに、農家さん達も大変嬉しそうなお返事で受け取っていました。

また、今年初めてとなる12月14日のミニレクチャーでは、秋田地域留学生等交流推進会議後、委員に向けて代表農家さんから4年間受け入れてみての感想を話してもらいました。当日は、農家民泊に参加した留学生数名からも感想を話してもらったり、贈呈したアルバムを見せたりと、委員にも民泊の楽しい様子がよく伝わったように思います。

今年の農家民泊を終え感じることは、農家さんに普段の悩みや不安を相談する学生、事業終了後も積極的に連絡をとる学生、国の両親を連れてぜひまた泊まりに来たいと話す学生もおり、本事業のテーマである第一に自分の出身地、第二に勉学に励んでいる地に加え、留学生らにとって西木町（西木町の農家さんたち）が第三の故郷のようになったということです。この農家民泊が、留学生らにとって、秋田でのかけがえのない思い出の一つになったことがアンケートからも伺えました。



# 国際交流団体等の活動紹介

## あきたのファミリー

財団法人秋田県国際交流協会（AIA）

財団法人秋田県国際交流協会は、在住外国人向けの様々な事業を実施しております。その中の「あきたのファミリー」事業を紹介します。

この事業は、文化の違いについて外国人留学生と県民の相互理解を深めることを目的として、県内の大学に在籍する留学生にホストファミリーを紹介し、交流を行っていただく事業で、平成18年度から実施しています。留学生には、地域の一般家庭との交流を通じて日本や秋田の習慣、文化などの理解を深めてもらいます。また、ホストファミリーには、この事業で出会う留学生を通じて出身国のことなどを知り、異文化を体験してもらいます。

平成24年度からは、ファミリーと交流したいという学生の意志を尊重した申込形態をスタートさせました。学生が申込するタイミングを自由に決め、当協会のホームページから申込をし、マッチングの決まったファミリーと交

流を始めます。12月末日現在のファミリーと留学生のマッチング数は20組でした。ファミリーからも学生からも楽しく交流を進めていると連絡をいただいております。

ファミリーと留学生のさらなる交流、そしてファミリー同士の交流や意見交換などを目的に、12月16日にクリスマス交流会を開催しました。今年は南米のクリスマスについてのプレゼンテーションを実施し、真夏のクリスマスの過ごし方やクリスマス料理を紹介しました。多数の質問が飛び交い、異文化を知ろうとする活発なものとなりました。国際交流に関心を持つ人々が集まることによって、秋田県の国際交流の枠がさらに広がった交流会でもありました。秋田県国際交流協会は県民と外国出身者の両方が住みやすい「多文化共生社会」を構築するため、これからも各種事業を展開してまいります。引き続き、皆様のご協力をお願いします。



クリスマス交流会にて



# Think globally, act locally

— より深くつながることを —

## ■ 秋田県国際交流をすすめる女性の会：わびえ

風薫る5月「2012年度 総会及び研修会」が秋田ビューホテルを会場に開催された。今年度も国際的な視野に立って「より深く つながることを」のテーマのもと決意を新たにスタートが切られた。来賓の県生涯学習センター所長様より「歴史を思い起こすとき、あらためて国際交流・異文化理解の重要さを感じる。そして狭いナショナリズムを越えていかなければならない」と抱負や期待を込めてのご挨拶を頂いた。

研修では被災地復興の願いを込めて、愛と絆の物語『ずっとあなたを愛してる』を上映。585名の来場者と共に心温まる感動を共有できた。

6月には活動の柱である「わびえ奨学プラン」贈呈式を県中央男女共同参画センターに於いて開催。将来母国と日本の架け橋になりたいと勉学に励んでいる学生への贈呈事業である。過去21年間で87名の留学生に支援している。今年度は秋田大学生（中国・ベトナム）2名。秋田県立大学生・本荘キャンパス（中国）1名・計3名に支給。わびえの事業への参加と相互の異文化交流を通して有意義な生活を送ってくれる

ことを願っている。

8月には「心に感動の夏を！」と夏まつり交流会を開催。大町ビルでは各国の祭りに因んだ「歌と踊り」留学生26名参加の交流会そして会食。竿燈大通りでは250本の稲穂のように揺らめく竿燈が夜空を照らし夢の世界への招待でした。

10月には、研修・交流「慶州・ソウルへの旅」慶州ナザレ園訪問。12名参加。また、12月に「ナザレ園訪問報告会」を開催。日韓の狭間の中で戦乱を生き抜いた日本人妻の会のおばあさん達と握りしめた手の温かさを忘れず今後の活動で伝え継いでいきたい。

12月には秋田地区「ハンドinハンドさよなら2012」開催。在住外国人や留学生6ヶ国の人々と多文化交流ができた。

2月には「わびえトーク」—祖国を離れ秋田で生きる—インドネシア出身アガタ氏による講演。

その他、国際協力活動として「幼い難民を考える会」への支援、海外医療活動への支援、国際募金活動への協力など数々の国際的な視野に立っての活動をすすめている。



「わびえ奨学プラン」贈呈式



「ハンド in ハンドさよなら2012」



「2012年度わびえ夏まつり交流会」



「慶州ナザレ園訪問」在韓日本人妻の会の方達との交流

# 外国人による日本語スピーチコンテスト & 民族衣装でこんにちは

## 秋田ユネスコ協会

秋田ユネスコ協会は、国連の専門機関UNESCOの精神を民間レベルで広めようと活動する団体で、毎年、教育、文化に関わる事業を実施している。

2012年度は、日本ユネスコ協会連盟が行う東日本大震災被災地子どもたちへの奨学資金供与、アジアの識字教育を支援する世界寺子屋運動に参加、そのための募金活動、書き損じハガキ回収キャンペーンなどを行った。独自の事業としては、4月に秋田大学準教授西田文信氏を講師に、国際理解講座「幸福度世界一の国ブータン」を実施、70名もの参加者が謎の多い国の実情に耳を傾けた。6月に身近な地域の歴史・文化を知る“寺内の史跡探訪会”、11月に「外国人による日本語スピーチコンテスト&民族衣装でこんにちは」、年が明けて1月に「ユネスコ・世界のお料理フェスタ」を開催した。

「外国人による日本語スピーチコンテスト」は、秋田ユネスコ協会が平成元年から実施しているいわば看板事業である。その目的は、秋田県に住む外国人が、日ごろ習得した日本語で自分の意見を発表することによって、日本語力の向上を図る。

他方それを聞く人たちは、各人のスピーチから、故国と日本の類似点、相違点など文化の多様性を汲み取る。そしてお互いに「共に生きる国際社会」の実現に向けて、考え、行動する機会にしたいというものである。

今年のスピーチのテーマは「私の希望の光」、8カ国11人が5分間のスピーチに挑戦した。審査員は5人、スピーチの内容、話しのわかりやすさ、日本語がきちんと身につけているか、話し方などで評価した。皆いずれ劣らぬ見事な日本語で、審査は難航した。

結果として、最優秀（秋田県知事）賞にモンゴル出身の秋田大学生エルデネバット ウヌボルドさん、優秀（秋田市長）賞にマレーシア出身の秋田高専生シティ ラッジアー ビンティ ユソッフさん、優秀（秋田県教育長）賞にラオス出身の秋田高専生スレーントーン プウビライさんが受賞した。

スピーチの終了後、青年海外協力隊、NPO法人バニヤンツリーとの共催で、「民族衣装でこんにちは」を実施した。民族衣装に身を包んだ12カ国の人たちが、それぞれのお国の言葉で“こんにちは”“ありがとう”と書いたプラカードを持って登場、発音しながらあいさつした。日本ではお目にかかれない文字もあり、どうやって書くのか、どう発音するのか、言葉の不思議を実感した。

言葉と民族衣装を通して、地球がぐっと小さく感じられた一日であった。



# 毎年留学生との様々な交流事業を実施、今年度は日中友好中学生卓球交流派遣、女性委員会ブロック交流会議を開催

■ 秋田県日中友好協会・県日中女性委員会・秋田地区日中友好協会

秋田県日中友好協会では、今年度日中国交正常化40周年記念事業として、8月17日から20日まで北京で開催された「日中友好交流都市中学生卓球交歓大会」に秋田県チームとして難波達矢君（秋田東中3年）と菊地実佳子さん（大曲中2年）、秋田市チームとして大西哲平君（秋田北中3年）と奥山史穂さん（秋田南中1年）の4名を派遣し、中国各都市や全国の派遣選手と交流を行ってきました。

県日中女性委員会では、6月2日に「第10回北海道・東北ブロック交流会議」を開催し、北海道・東北及び全国からの参加者をはじめ、学友会役員や札幌領事館の総領事夫人も来賓として参加し交流しました。

秋田地区日中と県日中女性委員会では、毎年合同で中国留学生秋田地区学友会の会員を招いて友好交流事業として4事業を実施しています。

4月は、「お花見」として秋田市一つ森公園の満開の桜の下で、留学生及び協会会員合わせて約70名が参加しバーベキューパーティーを

実施しました。

7月には、出戸浜海水浴場で「海を楽しむ会」を開催しました。例年であれば、夏は「地引き網交流会」として行っていましたが、春の大風で海の家所有の漁具が流されたため宝探しやスイカ割りに変更、その他アクセサリーづくりやお昼には焼肉で楽しく交流しました。

10月には、中国の建国記念日である「国慶節を祝う会」を秋田市内のホテルで開催、今年2月には中国の新年（暦の元旦に合わせて実施）を祝う「春節を祝う会」を市内ホテルで開催します。

両事業には留学生約50名、協会会員等50名の合わせて約100名が参加し、ゲームやカラオケ、ゲストを呼んでのイベントなどで楽しく交流をしています。

また、11月には県日中と女性委員会、学友会の3団体がアトリオンで開かれた「国際フェスティバル」に並んでブースを開設、それぞれの活動紹介やバザー、中国の紹介などを行いました。



「海に親しむ会」のスイカ割り



「国際フェスティバル」の参加ブース



「お花見」でバーベキューを楽しむ



「国慶節を祝う会」



# 留学生との交流と支援を中心に活動

## ■ 秋田モンゴル友好協会

秋田モンゴル友好協会は、県内に居住しているモンゴル人との交流、日本での生活が快適なものになるように支援することを中心に活動している。

現在（1月15日）は、JR秋田総合車両センターに研修に来ている1人以外は留学生9人とその家族4人ということなので、留学生たちとの交流支援が中心となる。

5月20日、秋田市内で定期総会を開いたが、これに留学生たち全員を招待して、総会終了後の懇親会にも参加してもらった。留学生たちは懇親会の冒頭に全員でモンゴル国家を斉唱、懇親会でも会員との懇談に楽しい時間を過ごした。

8月秋田市の竿灯が開かれたときは留学生とその家族を招待して日本の文化を体験しても

らった。モンゴルには、このような行事は、毎年7月に行われるナーダムという催し以外にはなく、日本の行事の多様さ、その数の多さに驚き、満喫していた。

11月の秋田ユネスコ協会主催の日本語スピーチコンテストには、留学生の参加を進めたところ、それが最優秀賞受けて、終了後にともに喜んだ。

今年度末には卒業して帰国する留学生もいるので、3月早々には送別会を開き、留学の成果を祝い、秋田を思い出の多いところにしてもらおうと計画している。



24年11月4日 スピーチコンテスト応援



24年11月17日 国際フェスティバル



24年12月8日 インターナショナル・スマイル・コレクション

# 異文化交流の輪を広げよう

## 国際交流オープンクラス

1990年9月に発足した「国際交流オープンクラス」は、草の根のボランティア活動グループです。

秋田在住の外国人の人たちの「日本語を話せる場が欲しい」「学んだ日本語をもっと使いたい」「母国のことを伝えたい」「自国を多くの人に理解して欲しい」「日本料理を習いたい」等など、の思いに応えることから活動が始まりました。

「オープン：ひらかれていること」「アット・ホーム」がグループのモットーです。楽しく異文化交流・国際交流を行っています。

24年度の《私の国・あなたの国シリーズ》では、ラオスの文化・生活・政治・教育・観光などについて、ラオスの留学生から紹介してもらいトーク&トークを行いました。

県の国際交流フェスティバルにも参加し、留学生と共に多くの市民と交流しました。2月上旬には、《食文化シリーズ》としてラオスの家庭料理教室を開催予定です。

これからも、秋田工業高等専門学校の留学生を中心に、国際交流の輪を広げていきたいと思っています。

(代表 伊藤晴美)



# 留学生交流事業の紹介

## ノースアジア大学

### 【ノースアジア大学活動紹介】

ノースアジア大学では、本年度も台湾の真理大学から交換留学生3名を受け入れ、海外協定大学との国際交流を進めています。留学生たちは日々、日本語能力の向上や法律・観光に関する知識の習得に向けて意欲的に取り組んでいます。学園内の学生交流プログラムなどにも積極的に参加し、異文化理解に努め、国境を越えた友情を育んでいます。

また、大学祭や竿灯祭りを通じて、地域の方々との交流も深めることができました。竿灯祭りでは1ヶ月に及ぶ事前練習を重ね、本番当日も差し手や太鼓を実演しました。

今後も学園内のみならず、秋田県の国際化に貢献できる交流活動を目指していきたいと思えます。

<http://www.nau.ac.jp/>（ノースアジア大学ホームページ）



## 秋田県立大学

### 【留学生生活を楽しもう】

秋田県立大学では、留学生たちが年間を通じて学内外のイベントや秋田県内の祭りに参加しています。学生同士はもちろん、地域の方々との交流も深め、同時に秋田への愛着を高めています。



新山裸まいり



雑列車ツアー



流しそうめん体験



なべフェスティバル

## 秋田工業高等専門学校

### 【秋田高専留学生の活動紹介】

本校は、平成3年度に最初の留学生を受け入れ、これまで多くの留学生が秋田高専を巣立っていきました。入学してきた留学生に対し、1年間の日本語教育（週6時間）の実施、チューター、留学生指導教員の配置など、きめ細かな留学生教育を行っています。

○外国人による日本語スピーチコンテスト

秋田ユネスコ協会が主催するもので、平成24年度は優秀賞と奨励賞を受賞しました。

○学校の枠を越えた外国人留学生研修（八戸）

東北地区高専が合同で実施するもので、平成24年度は八戸高専が幹事校として実施されました。

（秋田高専HP <http://www.ipc.akita-nct.ac.jp/>）



外国人による日本語スピーチコンテストで優秀賞と奨励賞を受賞



学校の枠を越えた外国人留学生研修（八戸）

## 国際教養大学

### 【Meet the People in Akita】

国際教養大学では、これまで4市町一八峰町・大仙市・男鹿市・由利本荘市一と異文化交流に関する協定を結び、留学生の派遣、児童・生徒の大学訪問など、双方向の交流を進めてきました。今年度は新たに美郷町とも協定を結び、交流活動の推進を図ることにしております。この他にも、クリスマス・節分等のイベントでの就学前児童との交流、小・中学校との英語活動を中心とした交流、田植え・稲刈り・脱穀、ヤマハゲ、火振りかまくらなどを通して地域の方々との交流も行っています。今後も、留学生が秋田の人々に出会えるよう、様々な体験を共有できるよう、地域と共に歩んでいけるよう、積極的に交流活動を展開してまいります。(国際教養大学HP：<http://www.aiu.ac.jp>)



八峰町峰浜中での英語活動



戸島小学校ハロウィン



新波地区稲刈り

## 秋田大学

### 【秋田大学実行事の紹介】

#### 【留学生等交流実地見学旅行】

留学生等の日本文化に対する理解を深めるとともに、留学生等同士の交流を図るため、6月23日(土)と24日(日)の1泊2日の日程で、本学の外国人留学生11名が参加し平泉・花巻・遠野への留学生等交流実地見学旅行を実施しました。

#### 【日本のもちつき】

もちつきやお供え作りなどを体験してもらい、日本の伝統文化に触れるとともに地域のみなさんとの交流を深めることを目的として行っており、毎年年末の恒例行事です。

#### 【留学生とランチ】

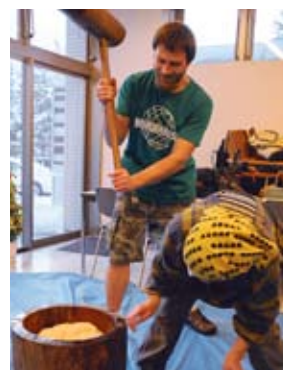
秋田大学に在籍する留学生と日本人学生がお弁当を持ち寄って、一緒にご飯を食べながら交流を深めてもらおうと企画しているもので、月1回程度行っています。

この他、スキー研修や農家民泊などの行事を実施しています。秋田大学国際交流センターホームページのEVENT REPORTでは実行事を掲載していますので是非ご覧ください。

<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/>



「留学生とランチ」

留学生等交流実地見学旅行  
(平泉・花巻・遠野)留学生体験事業  
「日本のもちつき」

スキー研修

# 平成24年度 国際交流事業の実施状況

## 地方自治体・国際交流団体

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( ) 書は、 参加留学生数	事業の内容	
1	甘肃省技術研修員受入事業	秋田県	平成24年9月中旬～平成25年2月中旬まで	1 (1)	中国甘肃省から研修員を受入れ、秋田県国際交流協会、秋田大学等で研修を行う。	
2	南米ネットワーク構築事業		平成24年9月中旬～平成25年2月中旬まで	2 (2)	在南米県人会の推薦を受けた人材を研修員として受入れ、秋田県国際交流協会、秋田大学等で研修を行い、県人会の後継者として育成する。また、県民との交流活動を実施することで地域の国際化を促す。	
3	環日本海留學生秋田発見体験ツアー事業（注：主催は秋田県環日本海交流推進協議会友好交流部会）		平成24年10月以降	環日本海圏出身留學生30名予定	将来の環日本海交流を担う県内留學生を対象に、本県の文化・産業を紹介する施設や観光地等を案内し、同地域の若い世代の秋田県に対する理解向上を促進する。	
4	あきたのファミリー	(財) 秋田県国際交流協会	通年	46組	ホストとなる県民を募集し、留學生との交流を行う。	
5	あきた国際フェスティバル2012		平成24年11月17日	40人	在住外国人や国際交流団体等による活動紹介やステージパフォーマンスを行う。	
6	あきたのファミリークリスマス交流会		平成24年12月16日	30人	ファミリーと留學生が一同に集い、交流会を行う。	
7	ウラジオストク開放20周年訪問団派遣事業	秋田市	平成24年6月29日～平成24年7月6日	6 (0)	ウラジオストク市からの招へいに基づき、同市開放20周年記念行事に出席するため、本市訪問団を派遣する。	
8	キナイ半島郡交流合意提携20周年記念訪問団派遣事業		平成24年7月25日～平成24年8月1日	17 (0)	キナイ半島郡との交流合意提携20周年記念行事等に出席するため、本市訪問団を派遣する。(市民訪問団10名を含む。)	
9	蘭州市友好提携30周年記念小学生軟式野球交流事業		平成24年8月8日～平成24年8月10日	47 (0)	両市の少年軟式野球チームによる試合等を通じた交流を行う。	
10	蘭州市友好提携30周年記念「大夢敦煌」公演事業		平成24年9月1日～平成24年9月5日	4000	大型舞劇「大夢敦煌」(モダンバレエ)を上演する。(公演9/2～4。留學生の観覧者数は不明。)	
11	蘭州市医療研修員受入事業		平成24年10月15日～平成24年12月11日	2 (0)	蘭州市から医療研修員を受け入れ、市立秋田総合病院で研修を行う。	
12	地域国際化推進事業(日本語教室)		毎週木曜日	7 (0)	外国人住民の基礎的な日本語習得を促進するため、日本語教室を開催する。(参加者数はH23の平均出席者数。)	
13	英語指導助手活用事業		通年	19 (0)	英語を母国語とする外国青年を招致し、英語教育におけるコミュニケーション能力の向上のため、市内中学校および高等学校に英語指導助手(ALT)として派遣する。	
14	横手市日本語教室		横手市	通年	153 (153)	毎週金曜日10時から12時まで年44回開催
15	明海大学留學生招待事業			平成24年10月～平成25年2月	20 (20)	秋の横手体験(10名)、冬の雪国体験(10名)
16	農作業体験			平成24年5月	34 (29)	秋田大学留學生(32人)による、田植え体験等による交流
17	平泉モニターツアー			平成24年6月	25 (20)	国際教養大学留學生による史跡探訪ツアー
18	増田内蔵モニターツアー	平成24年10月		22 (12)	国際教養大学留學生による増田内蔵探訪ツアー	
19	平成24年度青少年ハンガリー友好交流訪問団来市事業	由利本荘市	平成24年7月26日～平成24年8月3日	18 (0)	友好都市であるハンガリー・ヴァーツ市の青少年15名と引率3名が来市し、市内在住の中学生宅にホームステイをしながら、市内視察や市内中学校体験を行い相互交流を図る。	
20	国際児童絵画交流展		平成24年7月26日～8月2日 平成24年8月2日～8月26日		ハンガリー・ヴァーツ市、中国・無錫市、ベルギー・ブリュージュ市の児童の絵画を展示する。	
21	中国・無錫市 国際友好都市交流訪問団派遣事業		平成24年11月5日～平成24年11月8日	3 (0)	中国・無錫市で開催される国際友好都市交流会に市職員3名が出席予定。	
22	月例研修会	にかほ市国際交流協会	年6回	各回20名程度	国籍を問わず活躍されている方を講師として開催する研修会。各回異なる講師をお願いし、国際交流への理解を深める機会としています。	
23	西施まつり		平成24年8月4日	約50	嵯峨寺・象潟公民館において開催。松尾芭蕉の俳句で詠まれた中国四大美人の1人「西施(浙江省諸暨市)」を縁とした事業。	
24	アナコーテス市中学生交流受入事業		平成24年8月4日	18	姉妹都市ワシントン州アナコーテス市からの中学生14名と引率4名の受入事業。ホームステイを通じて交流を行っている。旧象潟町時代から数えて9回目の受入事業	
25	ショウニー市中学生交流受入事業		平成24年7月28日～平成24年8月6日	21	姉妹都市オクラホマ州ショウニー市からの中学生16名と引率5名の受入事業。ホームステイを通じて交流を行っている。旧仁賀保町時代から数えて21回目の受入事業	
26	ショウニー市中学生交流派遣事業		平成24年8月1日～平成24年8月6日	17	にかほ市在住の中学生14名と引率3名が姉妹都市であるオクラホマ州ショウニー市を訪問し、ホームステイを通じて交流を行う。旧仁賀保町時代から数えて23回目の派遣事業	
27	諸暨市代表団受入事業		平成24年10月17日～平成24年10月24日	12	友好都市浙江省諸暨市からの高校生8名と引率4名の受入事業。ホームステイを通じて交流を行っている。初めての高校生を中心とした青少年受入事業。	
28	国際交流展		平成24年11月2日～4日	会場来場予定約6,000名	市文化祭会場において、市国際交流協会が主体となり、友好都市との交流についての事業紹介を行う。	
29	国際理解講座「講演会」		平成24年11～12月開催(予定)	約60	秋田県在住の外国人を講師としての講演会。	
30	国際料理交流会		平成25年2月中旬(予定)	約60	秋田県在住の外国人を講師とした料理交流会。	
31	春のティーパーティー		平成25年3月中旬(予定)	約20	ALTを講師とした簡単な英会話教室。小中学生を対象とし、軽食を兼ねた参加しやすい雰囲気により、英語への関心を深めることを目的に開催。	
32	国際教養大学交流事業		大仙市	第1期(平成24年5月21日～7月19日)	1,334 (117)	大仙市内の幼稚園・保育園児、小学校児童、中学生生徒が国際教養大学の留學生とさまざまな交流(来校・来園及び大学訪問)を行う。生徒たちは留學生を通して、異文化に触れる体験ができ、また、互いに異なるものを受容する心やコミュニケーション能力を養うことができる。
	第2期(平成24年9月18日～12月21日)	2,446(179)				
	第3期(平成25年1月21日～3月1日)	未定				
33	韓国唐津市青少年 交流事業		平成24年8月2日～平成24年8月6日	7	平成19年に締結した「韓国唐津郡との間における友好交流に関する協定」に基づき、大仙市と唐津市の中学生が交互に訪問し交流を行う。平成24年度は大仙市の中学生4名と引率3名が唐津市を訪問し韓国文化体験やホームステイなどを通して韓国の中学生と交流を行った。	

【注釈】参加者の( )欄については内数で留學生を示している。

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( )書きは、 参加留学生数	事業の内容
34	韓国唐津市スポーツ交流	大仙市	平成24年6月28日～ 平成24年7月2日	230	韓国唐津市のジュニア選手9名とシニア選手14名と関係者合わせて31名を招待しバドミントン交流を行った。ジュニア選手は大曲小学校や市内スポーツ少年団、中学生等との交流、シニア選手は秋田県内外のトップチームである北都銀行や東北マークス、シンガポールナショナルチーム、また、国内の4大学などとの交流戦を行った。
35	韓国国際交流員による 出前講座		通年	765	大仙市韓国国際交流員による市民対象の韓国文化に関する出前講座を開催。異文化理解講座のほか、韓国料理教室や韓国テコンドー体験教室などを開催。
36	韓国LABO青少年スタディツアー	大仙市 国際交流協会	平成24年7月24日～ 平成24年8月2日	11	韓国LABOが主催するキャンプやホームステイに参加し、日本と韓国の歴史・文化・生活習慣の違いなどを体験する。
37	韓国LABO青少年受入事業		平成25年1月26日～ 平成25年2月2日	11	韓国LABOから派遣される青少年が大仙市を訪問し、ホームステイや日本文化体験、スキー体験などを行う。
38	国際フェスティバルin大仙		平成25年2月17日	未定	在住の外国人や国際交流・協力を行っている団体などと一緒にイオン大曲を会場にステージパフォーマンスやブース展示などを行う。
39	日本語教室	藤里町 国際交流協会	毎月第1・3水曜日	72 (0)	毎月2回(水曜日 10:00～12:00) 講師を招いて日本語教室を実施している。参加料は無料。※現在3名受講者 3名×2回×12ヵ月＝72名
40	日本語講座	能代市	平成24年4月～ 平成25年3月	40	市内在住の外国出身者が、日常生活に必要な日本語の会話及び読み書き、日本や地域の文化を学ぶ
41	日本語指導ボランティア養成講座		平成24年4月～ 平成25年3月	20	日本語指導法の基礎を学ぶ
42	ふれあい交流事業		平成24年4月～ 平成25年3月	45～400	盆踊り会、お茶会などを通じて、市民と日本語講座参加者の交流を行う
43	外国語指導助手(ALT)派遣事業		平成24年4月～ 平成25年3月	2	国際化の進展に対応するため、外国青年(外国語指導助手)を派遣し、能代市における英語教育及び国際理解教育の充実を図る
44	八峰町国際交流事業	八峰町	平成24年5月19日	20 (11)	オリエンテーション及びシーカヤック体験
			平成24年6月15日	210 (8)	町内中学校での授業(英語・総合)
			平成24年6月16日	35 (8)	ホームステイ・ジオパーク(二ツ森登山)
			平成24年7月13日	530 (12)	町内各小中学校での授業(英語・総合)
			平成24年7月14日	20 (12)	滝ノ間海岸にて釣り体験及び市場見学
			平成24年9月8日	70 (12)	子ども園の運動会に参加。
			平成24年10月19日	210 (12)	小中学校での授業(英語・総合)
			平成24年10月20日	150 (12)	ホームステイ・子ども園及び町内福祉施設での交流
			平成24年11月16日	450 (12)	町内小中学校での授業(英語・総合)
			平成24年11月17日	50 (12)	ホームステイ・子ども園での交流。
			平成24年12月14日	320 (12)	町内小中学校での授業(英語・総合)
			平成25年1月26日	40 (12)	子ども園での交流。書道体験
			平成25年2月15日	380 (12)	町内小中学校での授業(英語・総合)
平成25年2月16日	50 (12)	ホームステイ・子ども園での交流。			
平成25年3月9日	50 (10)	地域住民との交流。			
45	国際教養大学との交流事業	男鹿市	通年	3,386 (122)	男鹿市内の小・中学が国際教養大学の留学生との交流を通じて、外国語や外国の文化に理解を深め国際感覚の優れた人材育成を目指す。交流会、イングリッシュキャンプ、国際教養大学訪問
46	外国語助手招致事業		通年	3	英語指導助手(ALT)として外国青年を招致し、市内の小・中学校児童生徒の語学力の向上と国際理解教育の推進を図る。
47	日本語教室		月2～3回程度(土曜日) 年間26回程度開催予定	196	在住外国人の方を対象に日本語の書き方、読み方、風習、日本文化等を学ぶ。
48	英会話講座	鹿角国際交 流協会	平成24年4月26日～ 平成25年3月28日	150 (0)	市民向け英会話講座の開催、全20回 ※参加申込者は27名、参加者は現在までの延べ参加者数とする。
49	中国語講座		平成24年4月27日～ 平成24年12月14日	66 (0)	市民向け中国語講座の開催、全14回 ※参加申込者は9名、参加者は現在までの延べ参加者数とする。
50	ハンガリー語講座		平成24年4月25日～ 平成25年7月25日	41 (0)	市民向けハンガリー語講座の開催、全7回 ※参加申込者は9名、参加者は現在までの延べ参加者数とする。
51	国際理解講座		平成24年8月4日	67 (0)	「ハンガリーと日本人々との文化交流」と題し、日本ハンガリー友好協会田中理事長の講演会を開催。
52	ハンガリー国ショブロン市友好交流事業		平成24年8月16日～ 平成24年8月24日	8 (0)	ハンガリー国ショブロン市から青少年ホームステイ訪問団の受入れ、市民との交流を図った。
53	ハンガリー国日本語語学指導員派遣事業		平成24年10月～ 平成26年9月	1 (0)	姉妹都市提携を結んでいるハンガリー国ショブロン市に対し、日本語語学指導員(7代目)を派遣。
54	国際料理教室		平成24年6月24日～	17 (0)	在住外国人を講師に迎え、市民向け料理教室の開催。全3回。第1回は韓国料理。
55	国際理解講座		平成24年4月14日	70	秋田大学国際交流センター准教授西田文信氏を講師に、「幸福度世界一の国ブータン～心の龍を育てるために～」と題して講演会を開いた。
56	ユネスコ・交流亭	平成24年6月16日	23	身近な地域文化に触れることを目的に、秋田市の寺内地区の史跡探訪を行った。	
57	外国人による日本語スピーチ・コンテスト & 民族衣装でこんにちは	秋田 ユネスコ 協会	平成24年11月4日	120 (40)	1部:外国人が日本語でスピーチを行うコンテスト。留学生等12人が出場予定。 2部:留学生等が自国の民族衣装とことばを紹介する(12カ国)。
58	ユネスコ・世界のお料理フェスタ		平成25年1月19日	90 (25)	世界の料理を通して、文化の多様性を学んでもらうとともに、国際交流を図る。
59	国際フェスティバル		平成24年11月17日	10	A I A主催の事業に参加。活動紹介及びチャリティバザーを実施。
60	アフガニスタンの教育支援		平成24年11月17日	10	募金活動、バザー、書き損じはがき回収キャンペーンなどによって得られた資金を、日本ユネスコ協会が実施する世界寺子屋運動を通して、アフガニスタンの文字を読めない人たちの教育を支援する。
		平成25年1月26日～ 平成25年1月27日	26	募金活動、バザー、書き損じはがき回収キャンペーンなどによって得られた資金を、日本ユネスコ協会が実施する世界寺子屋運動を通して、アフガニスタンの文字を読めない人たちの教育を支援する。	

20 【注釈】参加者の( )欄については内数で留学生を示している。

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( )書きは、 参加留学生数	事業の内容	
61	留学生への援助金	国際ソロブ チミスト	平成24年4月～ 平成25年6月	1	秋田大学留学生へ1年間援助金贈呈	
62	国際フェスティバル		平成24年11月17日	会員他	フェスティバル参加の方と交流・バザー	
63	日本語によるスピーチコンテスト		平成24年11月4日	1	秋田ユネスコ協会へ協賛金と賞状の授与	
64	定期総会	秋田 モンゴル 友好協会	平成24年5月20日	31 (10)	当協会定時総会。留学生が母国の歌を紹介。	
65	モンゴル訪問		平成24年7月28日～ 平成24年8月6日	4	協会有志モンゴルを訪問。元留学生10名と交流。	
66	竿灯祭案内		平成24年8月3日	14 (9)	竿灯祭に案内	
67	時天空間を激励		平成24年8月9日	7	当協会名誉会員モンゴル出身の大相撲の時天空間が秋田巡業で来秋、激励。時天空間の母校の中学生と秋田の中学生との交流を計画。	
68	日本語スピーチコンテスト		平成24年11月4日	8 (7)	ユネスコ協会主催のコンテストに出場する留学生を激励応援。	
69	あきた国際フェスティバル2012		平成24年11月17日	9 (7)	秋田県国際交流協会主催のフェスティバルに参加。当協会の活動と留学生による母国紹介。	
70	インターナショナル・スマイル・ コレクション2012・イン・ウインター		平成24年12月8日	4 (3)	民間団体の主催の民族衣装ファッションショーに参加、モンゴルの民族衣装「アール」を紹介	
71	ユネスコ・世界のお料理フェスタ2013		平成25年1月19日	8 (6)	ユネスコ協会主催の、世界のお料理フェスタに参加し、モンゴル料理を紹介する。	
72	モンゴルのお正月		平成25年2月11日		モンゴルの旧正月を、留学生と協会員で祝う。	
73	観桜と歓迎の集い		秋田県日本 中国友好協会	平成24年4月28日	80 (50)	桜を愛で、新規の留学生を歓迎する野外パーティー（一つ森公園）
74	県協会定期総会	平成24年5月30日		50	今回は役員改選も（パークホテル）	
75	全国女性委員会北海道 東北ブロック会議	平成24年6月2日～ 平成24年6月3日		160 (10)	秋田女性委員会が当番 日中友好全般がテーマ	
76	海辺の集い	平成24年7月22日		90 (50)	大陸育ちの留学生に海を楽しませる。海水浴、地引網、スイカ割り、海の家で食事（出戸浜）	
77	日中友好都市中学生 卓球交歓大会	平成24年8月16日～ 平成24年8月21日			県と甘肅省、秋田市と蘭州市が男女各1名を出してチームを編成するなど全国の友好都市が参加、北京市で交歓試合。	
78	県協会理事会	平成24年10月6日		15	尖閣問題後の日中間問題で協議	
79	国慶節を祝う会	平成24年10月6日		100 (65)	中国の建国を祝って会食、カラオケ、ビンゴなど。国同士がオケ、ビンゴなど。国同士が友好を推進（ビュホテル）	
80	「あきたのファミリー」ホームステイ・ ホームビジット受け入れ	言語交流研 究所ヒッポ ファミリー クラブ		各家庭随時複数回	3家庭 (6)	アメリカ (1) 台湾 (3) ノルウェー (1) 香港 (1) からの留学生ホームステイ
81	定例活動にて留学生との交流			ホームステイ受け 入れ随時	15 (5)	色々な国の歌に合わせてゲーム いろいろな国のことばで自己紹介やお話 ※留学生数はこのべ。毎回1～3人程度参加。
82	ソウル高校学生ホームステイ受け入れ			平成24年7月13日～ 平成24年7月14日	1家庭 (2)	秋田県 高校生国外派遣交流
83	JICA研修生 ホームステイ受け入れ		平成24年7月28日～ 平成24年7月29日	1家庭 (1)	タイからのJICA研修生	
84	留学生・研修生farewell party		平成24年7月29日	14 (2)	アメリカ・台湾の留学生と ゲーム、会食、懇談など	
85	秋田国際フェスティバル2012		平成24年11月17日	10	秋田県国際交流協会主催 クイズや活動紹介	
86	halloween party & 留学生 welcome party		平成24年10月21日	18 (4)	香港・台湾の留学生・アルゼンチンの研修生・ボツワナの留学生と、ハロウィンにちなんだゲーム、会食、懇談等	
87	留学生farewell party & クリスマスparty		平成24年12月9日	23 (5)	香港・台湾の留学生・アルゼンチンの研修生・ボツワナの留学生と、ゲーム、会食、懇談等	
88	新年交流会		平成25年1月27日 (予定)	15 (4)	アルゼンチン、ブラジル、中国の研修員、ボツワナの留学生とゲーム、会食、懇談等	
89	あなたの国・私の国シリーズ (ラオス編)		国際交流 オープンクラス	平成24年10月20日	17 (5)	ラオスの留学生に「ラオスの国」を紹介してもらいながら、異文化交流・トーク&トーク
90	あなたの国・私の国シリーズ (インドネシア編)	平成25年3月予定				
91	食文化シリーズ・ラオスの料理教室	平成25年2月3日		31 (8)	秋田高専のラオスの留学生を講師に迎え、ラオス料理を作りながら交流をはかる。	
92	国際交流フェスティバル	平成24年11月17日	18 (5)	ボランティア活動の紹介・一般市民との交流		
93	2012年度総会・研修会 映画上映「ずっとあなたを愛してる」	秋田県国際 交流をすす める女性の 会(わびえ)	平成24年5月12日	総会63 映画581	テーマ学習 Think globally, act locally.より深く つながることを一被災地復興の願いをこめて、愛と絆の物語「ふたたび」を上映。在住外国人や一般市民との共有の機会を得た。	
94	「わびえ奨学プラン」贈呈式		平成24年6月8日	15 (5)	県内の私費女子の留学生に対し奨学金を支給。秋田大学留学生2名(中国)、秋田県立大学留学生1名(中国)へ支給。	
95	夏まつり交流会「心に感動の夏を」		平成24年8月6日	56 (26)	「秋田の祭り、竿燈を楽しもう」と大町ビルで交流会・会食のち、留学生と共に稲穂の夜空を楽しんだ。	
96	「日本国際連合協会秋田県本部講演会」		平成24年9月18日	200(わびえ5)	演題「東アジア情勢と日本の針路」講師 国際教養大学教授 梅原克彦氏	
97	研修・交流「慶州・ソウルへの旅」		平成24年10月1日～ 平成24年10月4日	12	韓国慶州ナザレ園訪問。在韓日本人妻についての理解と交流そして支援。	
98	国際交流・大仙市グランドゴルフ大会		平成24年10月7日	22 (14)	グランドゴルフを通して在住外国人と交流。	
99	横手市・南部男女共同参画センター祭り		平成24年10月13日	250(わびえ6)	一般市民への男女共同参画への関心・理解を深めながら交流の場をつくる。バザー、わびえお茶席参加。	
100	栄公民館祭り		平成24年10月21日	230(わびえ3)	地域活動への参加・横手市 ブース出展 チャリティ活動	
101	「秋の稔りフェア」		平成24年10月27日～ 平成24年10月28日	21 (13)	地域活動への参加・大仙市 ブース出展 チャリティ活動。	
102	「米まつり」協賛参加		平成24年10月27日～ 平成24年10月29日	38	地域活動への参加・由利本荘市 ブース出展 チャリティ活動。	
103	「ハーモニープラザまつり2012」 —もう一度見直そうマイライフ 私からは はじめる。男女共同もっと参画—	秋田県国際 交流をすす める女性の 会(わびえ)	平成24年11月9日～ 平成24年11月10日	1500 (21)	登録団体との相互理解と一般市民への男女共同参画への関心・理解を深めながら交流の場をつくる。ワークショップ、活動紹介パネル展示、ブース出展、チャリティ活動。	
104	AIA「あきた国際フェスティバル2012」		平成24年11月17日	参加団体30 (わびえ20)	県国際交流協会主催で30団体参加 県内在住外国人と一般市民との交流、ブース出展・活動紹介パネル展示。チャリティ活動。	
105	国際理解講座「テーマ学習」 慶州・ソウルへの旅 報告会		平成24年12月5日	17	韓国慶州ナザレ園訪問。在韓日本人妻についての理解と交流そして支援。二度目の訪問を終えて考えること。	
106	「ハンドinハンドさよなら2012」		平成24年12月19日	39 (15)	クリスマス交流会。在住外国人や留学生と共に伝統文化について学び合い、理解を深める	
107	「わびえトーク」祖国を離れ秋田で生きる		平成25年2月3日	30	県内在住外国人として初めて「看護師国家試験」に合格し、秋田の医療現場で働くアガタ氏に聞く—インドネシア出身	
108	第20回ひなまつり交流会		平成25年2月28日	53 (33)	由利本荘市の伝統行事の「ひなまつり」を体験、イベントを通して在住外国人との交流。	
109	ひなまつり交流会		平成25年3月上旬(予定)	10 (5)	大仙市の伝統文化行事「ひなまつり」を開催。イベントを通して在住外国人との交流。	

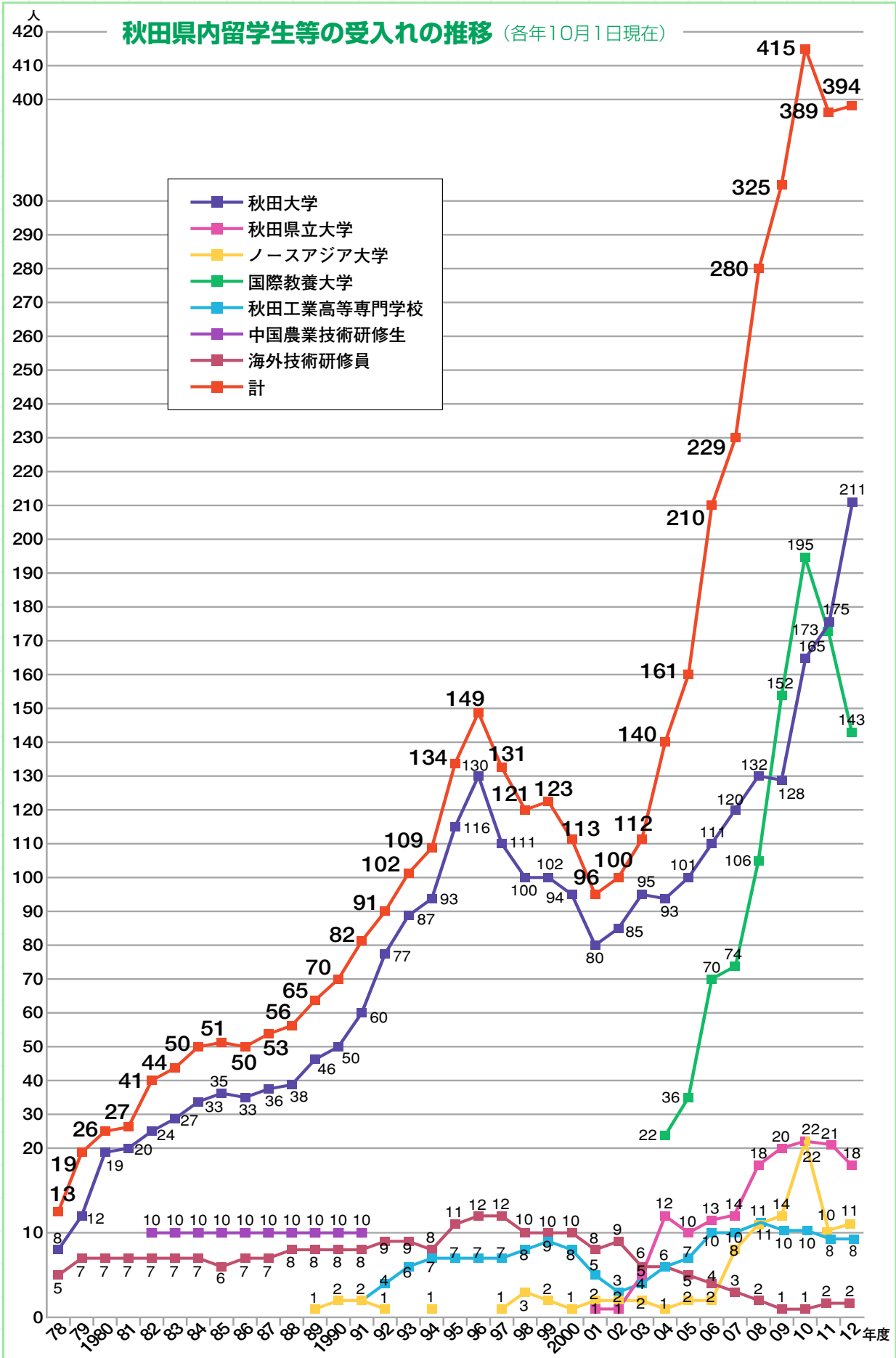
【注釈】参加者の（ ）欄については内数で留学生を示している。

大学・高専

No.	事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ( ) 書名は、 参加留学生数	事業の内容
1	八峰町との交流プログラム	国際教養 大学	5/9(水)、5/19(土)、 6/15(金)-6/16(土) 9/8(土)、9/27(木)、 10/10(水) 10/19(金)-10/20(土)、 10/25(木)、11/8(木) 11/16(金)-11/17(土)、 12/14(金)-12/15(土)、 1/26(土)、2/15(金) 2/16(土)、3/9(土) 計14件	122 (113)	平成19年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。八峰町内の子ども園、小学校、中学校を本学学生(日本人学生および留学生)が訪問し、英語クラスやイベントに参加するなどして、異文化交流を推進している。八峰町内でのホームステイや、小・中学生が大学を訪問しての交流も行っている。
2	大仙市との交流プログラム		5/23(水)、5/28(木)、 5/30(土)、5/31(日)、 6/7(木)、6/13(水)、 6/21(木)×2、6/26(火)、 6/27(水)、6/28(木)×2、 6/29(金)×2、 7/5(木)、7/7(土)、 7/9(月)×2、 7/10(火)×2、 7/13(金)、7/18(水)、 7/19(木)、7/28(土)、 8/28(火)、9/20(木)、 9/26(水)、9/27(木)、 9/28(金)×2、 10/1(月)×2、 10/3(水)、10/4(木)、 10/12(金)、10/17(水)×2、 10/23(火)、10/29(月)、 10/30(火)、10/31(水)、 11/2(金)、11/7(木)×3、 11/14(木)、11/15(木)×2、 11/21(木)、11/22(木)、 11/27(火)、12/13(木)、 12/14(金)、12/19(水)、 12/20(木)、12/21(金)×4 1/21(日)、1/31(木)× 2/6(水)、2/7(木)× 2,2/8(金)、2/13(水)、 2/14(木)、2/15(金)、 2/22(金) 計71件	358 (343)	平成21年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。大仙市内の幼稚園・保育園、小学校、中学校と本学留学生とが交流。大仙市内へ出向いたり、あるいは児童・生徒が本学を訪問するなど、双方向の交流を行っている。
3	男鹿市との交流プログラム		5/9(水)、5/10(木)、 5/18(金)、6/4(月)、 6/29(金)、7/9(月)、 7/13(金)-7/14(土)、 7/18(水)、8/1(水)- 8/2(木)、9/14(金)、 10/18(木)、10/26(金) 10/30(火)、11/6(木)、 1/11(金)、12/22(土)、 2/8(金) 計16件	133 (132)	平成22年度から実施している、交流協定に基づく交流事業。男鹿市内の小学校、中学校を本学の留学生が尋ね、英語による交流活動を行っている。
4	由利本荘市との交流プログラム		7/5(木)、11/29(木)、 2/15(金)、2/22(金) 計4件	38 (38)	平成23年度から実施している。交流協定に基づく交流事業。由利本荘市内の小学校を中心に、小学生と本学留学生との異文化交流を実施している。
5	秋田市雄和地区との交流		5/26(土)、6/3(日)、 9/30(日)、10/17(水)、 1/12(土)	48 (35)	秋田市雄和新波地区との農作業を通じた交流活動。春の田植えに始まり、さなぶり運動会、稲刈り、脱穀と続き、冬にはヤマハゲにも参加する予定である。
6	サテライトセンターでのカンパセーション パートナー(講座)		毎週土曜日	129 (129)	秋田市内明徳館ビル二階にあるサテライトセンターでの活動。毎週土曜日に一般利用者が外国語の習得を兼ねて留学生と交流をする。英語のみならず、中国語・韓国語・フランス語・ドイツ語と多様な言語で開講しており、それぞれの言語を母語に持つ留学生たちが会話パートナーをつとめている。
7	田沢湖・角館バスツアー		4/28(土)	210 (135)	春の角館、田沢湖を回るバスツアー。
8	男鹿半島バスツアー		5/26(土)	133 (85)	男鹿半島、なまはげ館、水族館GAOなどを回るバスツアー。
9	米国空軍太平洋音楽隊-アジアのコンサート		6/6(水)	70 (40)	米国空軍の音楽隊のコンサート(アトリオンホールにて)
10	歌舞伎観劇ツアー		7/4(水)	123 (90)	県民会館で歌舞伎鑑賞。
11	蛸満寺・鳥海山		7/14(土)	100 (70)	鳥海山・蛸満寺を回るバスツアー。
12	田沢湖・角館バスツアー		8/31(土)	128 (69)	秋の角館、田沢湖を回るバスツアー。
13	横手ふるさと村、小安峡バスツアー		10/27(土)	118 (80)	横手ふるさと村経由で、紅葉の小安峡を巡るバスツアー。
14	なまはげ柴灯まつり		2月開催予定	90 (予定)	男鹿のなまはげ柴灯まつりを見るバスツアー。
15	高杉祭		平成24年6月30日～ 平成24年7月1日	9 (9)	模擬店への参加を通し、地域の方と交流する。
16	ウインタースクール	平成25年1月21日～ 平成25年2月4日	10 (10)	韓国・培材大学から短期留学生を受け入れ、語学研修及び文化交流を行う。	
17	日本国花苑遠足ツアー	平成24年4月30日	30 (10)	由利本荘市民と一緒に日本国花苑を巡るツアー	
18	映画鑑賞会	平成24年5月17日	20 (1)	秋田女性協会の映画鑑賞会	
19	流しそうめん体験	平成24年7月7日	35 (6)	大学主催日本食文化体験交流イベント	
20	竿灯祭り見学ツアー	平成24年8月5日	30 (15)	秋田の竿灯祭りの見学	
21	球技大会	平成24年8月22日	50 (10)	大学主催スポーツ大会	
22	ふるさとPR	平成24年10月6日	(20)	学祭に来場者を対象に出身国文化について紹介する	
23	なべフェスティバル	平成25年1月12日	90 (10)	出身国料理を披露する	
24	新山裸まいりツアー	平成25年1月20日予定	20 (15)	由利本荘市の冬祭りを体験	
25	かまくら祭りツアー	平成25年2月15日予定	30 (15)	秋田の竿灯祭りの見学民俗行事である横手かまくら祭りに参加	
26	平成24年度 学校の枠を超えた外国人留学生研修	秋田工業高 等専門学校	平成25年1月12日～ 平成25年1月14日	54 (36)	八戸高専施設・設備見学、文化交流、交歓会
27	留学生実地見学旅行	秋田大学	平成24年6月23日～ 平成24年6月24日	20 (20)	岩手県の平泉や遠野等を訪問・見学。
28	北東北国立3大学外国人留学生合同合宿研修会		平成24年11月23日～ 平成24年11月24日	90 (90)	弘前大学および岩手大学の留学生及び日本人学生との交流会。合同合宿研修会を行い、グループごとの共同作業などを通して、多文化交流を体験する。
29	留学生体験事業「もちつき」		平成24年12月20日	100 (50)	日本の伝統文化「もちつき」を体験
30	外国人留学生スキー研修		平成25年1月26日	15 (15)	太平山スキー場を会場にスキー研修を実施
31	秋田の冬の行事体験旅行		平成25年2月10日～ 平成25年2月11日	30 (30)	秋田の冬の行事を体験(西木の紙風船上げ)



# 留学生関係資料



## 住居形態別留学生数 (平成24年10月1日現在)

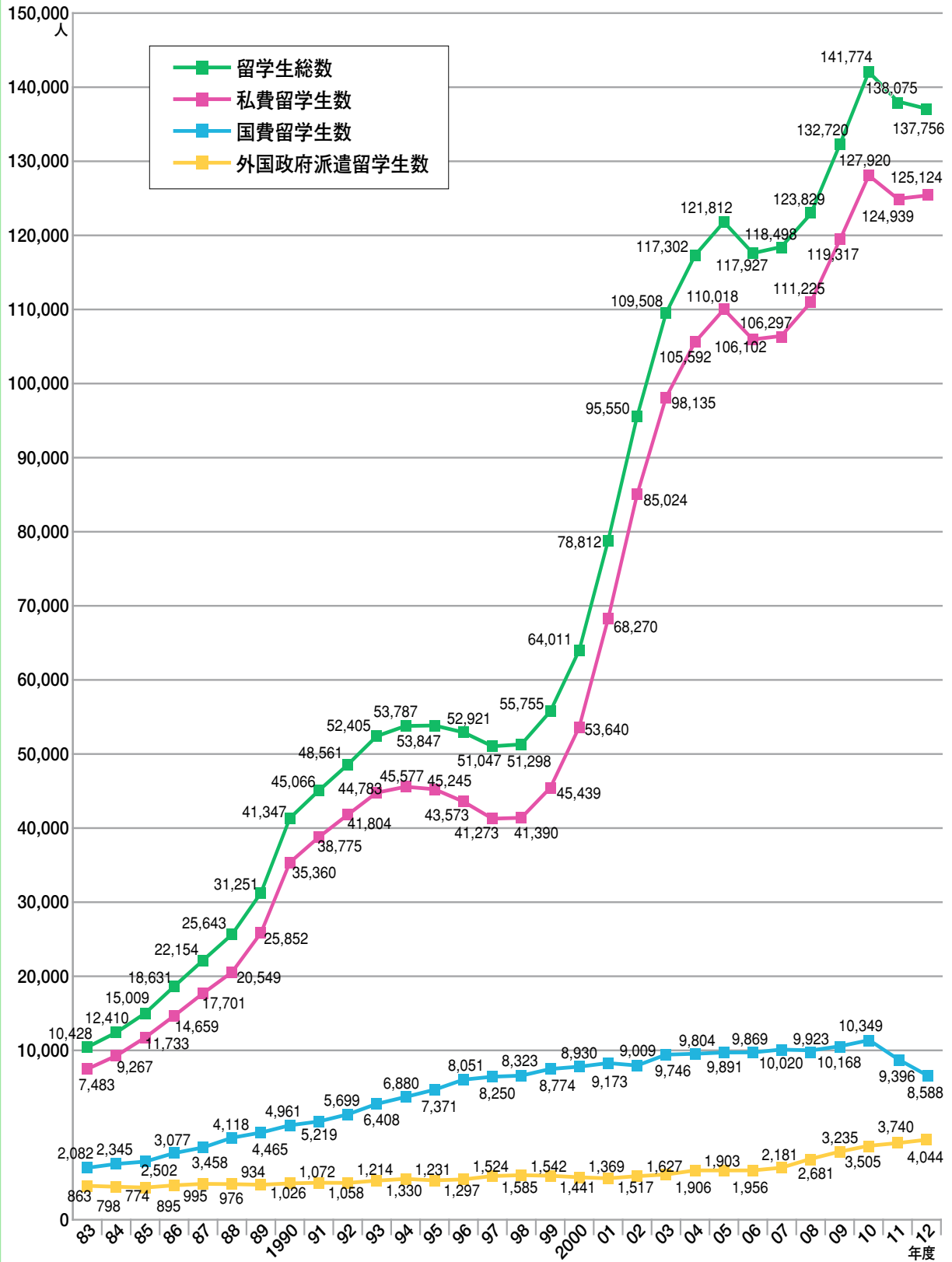
住居別	学校等別	秋田大学	秋田県立大 学	ノースア ジア大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 校	秋 田 県	合 計
留学生用宿舎		58 (30)						58 (30)
大学等の学生寮		15 ( 0)		10 ( 3)	139 (65)			164 (68)
秋田県職員宿舎								
公営住宅								
民間下宿・アパート		118 (63)	18 ( 7)		1 ( 1)		3 ( 3)	140 (74)
民間企業の社員寮								
ホームステイ								
その他		20 (13)		1 ( 1)	3 ( 2)	8 ( 5)		32 (21)
合 計		211(106)	18 ( 7)	11 ( 4)	143 (68)	8 ( 5)	3 ( 3)	394(193)

注：( ) 内は内数で女性を示す。

## 秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況 (平成24年10月1日現在)

地域・国名	機関名等	秋田大学	秋田県立大 学	ノースア ジア大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 校	秋 田 県 (海外技術 研修員)	計	地域別 割合
ア ジ ア	中国	77	15	3	4		1	100	68.0%
	マレーシア	41			1	4		46	
	韓国	18	1	2	4			25	
	ベトナム	33						33	
	台湾	3		3	19			25	
	モンゴル	6	1		3			10	
	インドネシア	4			1	1		6	
	フィリピン	1			5			6	
	タイ	1			4	1		6	
	香港				4			4	
	ラオス					2		2	
	マカオ				1			1	
	カザフスタン				1			1	
	インド	1						1	
	バングラディシュ	1						1	
ミャンマー				1			1		
計		186	17	8	48	8	1	268	
ア フ リ カ	ケニア	2						2	3.0%
	ボツワナ	3						3	
	ザンビア	1				1		2	
	モロッコ					4		4	
	エジプト	1						1	
計		7	0	0	5	0	0	12	
オ セ ア ニ ア	オーストラリア	1			3			4	2.3%
	バブアニューギニア	1						1	
	ソロモン諸島	1						1	
	ニュージーランド				1			1	
トンガ			2				2		
計		3	0	2	4	0	0	9	
中 東	アフガニスタン	2						2	1.0%
	イスラエル	2						2	
計		4	0	0	0	0	0	4	
北 米	アメリカ	2			44			46	13.2%
	カナダ				4			4	
	メキシコ				2			2	
計		2	0	0	50	0	0	52	
中 南 米	ブラジル	1					1	2	1.3%
	チリ	1						1	
	アルゼンチン						1	1	
	ウルグアイ		1					1	
計		2	1	0	0	0	2	5	
ヨ ー ロ ッ パ	イギリス				8			8	11.2%
	マルタ				1			1	
	イタリア	1			1			2	
	ノルウェー				3			3	
	オランダ				2			2	
	ドイツ				3			3	
	フランス				5			5	
	スウェーデン				2			2	
	ポルトガル	1			2			3	
	チェコ				1			1	
	スイス				1			1	
	ルーマニア	3			1			4	
	リトアニア				3			3	
	ブルガリア				1			1	
	ウクライナ			1	1			2	
フィンランド	2			1			3		
計		7	0	1	36	0	0	44	
合 計		211	18	11	143	8	3	394	100%

## 日本全体の留学生数の推移 (各年5月1日現在)



参照：独立行政法人日本学生支援機構「平成24年度外国人留学生在籍状況調査」  
(平成25年2月8日公表)

## 出身国（地域）別留学生数（平成24年5月1日現在）

中国・韓国・台湾からの留学生を合わせると全留学生に占める割合は78.2（前年度79.5）%となっている。

国(地域)名	留学生数		構成比		国(地域)名	留学生数		構成比	
中国	86,324人	(87,533)	62.7%	(63.4)	フィリピン	497人	(498)	0.4%	(0.4)
韓国	16,651人	(17,640)	12.1%	(12.8)	英国	429人	(364)	0.3%	(0.3)
台湾	4,617人	(4,571)	3.4%	(3.3)	サウジアラビア	413人	(336)	0.3%	(0.2)
ベトナム	4,373人	(4,033)	3.2%	(2.9)	オーストラリア	338人	(231)	0.2%	(0.2)
ネパール	2,451人	(2,016)	1.8%	(1.5)	ロシア	333人	(331)	0.2%	(0.2)
マレーシア	2,319人	(2,417)	1.7%	(1.8)	カンボジア	311人	(326)	0.2%	(0.2)
インドネシア	2,276人	(2,162)	1.7%	(1.6)	カナダ	302人	(286)	0.2%	(0.2)
タイ	2,167人	(2,396)	1.6%	(1.7)	ブラジル	272人	(272)	0.2%	(0.2)
アメリカ合衆国	2,133人	(1,456)	1.5%	(1.1)	スウェーデン	244人	(193)	0.2%	(0.1)
ミャンマー	1,151人	(1,118)	0.8%	(0.8)	ラオス	223人	(248)	0.2%	(0.2)
モンゴル	1,114人	(1,170)	0.8%	(0.8)	イラン	213人	(229)	0.2%	(0.2)
バングラデシュ	1,052人	(1,322)	0.8%	(1.0)	エジプト	213人	(235)	0.2%	(0.2)
フランス	740人	(530)	0.5%	(0.4)	シンガポール	211人	(186)	0.2%	(0.1)
スリランカ	670人	(737)	0.5%	(0.5)	ウズベキスタン	203人	(191)	0.1%	(0.1)
ドイツ	566人	(393)	0.4%	(0.3)	その他	4,409人	(4,082)	3.2%	(3.0)
インド	541人	(573)	0.4%	(0.4)	計	137,756人	(138,075)	100.0%	(100.0)

( ) 内は平成23年5月1日現在の数

## 地方別・都道府県別留学生数（平成24年5月1日現在）

(人)

地方名	留学生数	都道府県	留学生数		地方名	留学生数	都道府県	留学生数	
北海道	2,737 [2.0%]	北海道	2,737	(2,734)	近畿	25,691 [18.6%]	三重	946	(1,025)
	(2,734) ([1.8%])						滋賀	454	(470)
東北	3,385 [2.5%] (3,746) ([2.7%])	青森	281	(413)	中国	6,821 [5.0%] (7,142) ([5.2%])	京都	6,900	(6,246)
		岩手	350	(375)			大阪	10,521	(10,325)
		宮城	1,872	(2,018)			兵庫	5,128	(4,959)
		秋田	355	(292)			奈良	1,463	(1,490)
		山形	225	(207)			和歌山	279	(292)
		福島	302	(441)			鳥取	183	(183)
関東	64,429 [46.8%] (64,088) ([46.4%])	茨城	2,638	(2,713)	四国	1,309 [1.0%] (1,418) ([1.0%])	島根	195	(230)
		栃木	1,075	(1,073)			岡山	2,273	(2,516)
		群馬	1,366	(1,571)			広島	2,499	(2,647)
		埼玉	5,877	(6,013)			山口	1,671	(1,566)
		千葉	5,290	(4,850)			徳島	332	(350)
		東京	43,500	(43,188)			香川	351	(378)
		神奈川	4,683	(4,680)			愛媛	462	(507)
中部	15,165 [11.0%] (15,441) ([11.2%])	新潟	1,533	(1,592)	九州	18,219 [13.2%] (18,699) ([13.5%])	高知	164	(183)
		富山	567	(571)			福岡	10,434	(10,635)
		石川	1,570	(1,670)			佐賀	292	(341)
		福井	288	(309)			長崎	1,461	(1,518)
		山梨	841	(880)			熊本	724	(667)
		長野	774	(681)			大分	3,562	(3,873)
		岐阜	1,406	(1,353)			宮崎	170	(167)
		静岡	1,563	(1,679)			鹿児島	968	(881)
		愛知	6,623	(6,706)			沖縄	608	(617)
		計						計	

( ) 内は平成23年5月1日現在の数

参照：独立行政法人日本学生支援機構「平成24年度外国人留学生在籍状況調査」  
(平成25年2月8日公表)

# 平成24年度秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨

日 時：平成24年12月14日（金）15：55～17：00

場 所：カレッジプラザ大講義室

議事に先立ち、秋田地域留学生等交流推進会議議長の吉村昇秋田大学長から挨拶の後、各委員の自己紹介があった。

## (1) 協議事項

### ① 秋田地域留学生等交流推進会議・運営委員会の統合について

秋田地域留学生等交流推進会議は、秋田県内における留学生の受入れや、交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されている。毎年11月に運営委員会を、12月に推進会議を開き、今後の活動について話し合い、各機関で行っている国際交流の活動状況の報告・情報共有をしている。しかし、ここ数年、同じ会議を2度開いている印象があり、事務局から秋田地域留学生等交流推進会議と運営委員会の統合の提案があった。会議前に各大学・事務担当者内で秋田地域留学生等交流推進会議と運営委員会を合同で行うことについても検討した。ちなみに、隣隣の岩手では過去に合同会議を行っていたが、本来別日に行うべきものを合同で行うことについて会議で意見があり、推進会議に統合した経緯があったこと等説明があった。審議の結果、統合案が了承された。

### ② 平成23年度秋田地域留学生等交流推進会議決算報告

平成25年度「秋田地域留学生等交流推進会議」事業計画(案)  
協議資料を基に決算報告があり、報告について了承された。

なお、補足としてノースアジア大学80,000円、秋田県立大学80,000円、国際教養大学80,000円、秋田大学260,000円をそれぞれ負担していることの報告があった。

平成25年度の事業計画(案)については冊子の発行が主な支出になることの説明があった。また、来年度からは会議開催場所を秋田大学手形キャンパスの会議室で行い、懇親会会場を秋田大学生協で行いたいこと、懇親会会場を大学内とすることで経費を抑えて留学生から徴収する金額を下げること、例年より10名増員して行いたいことの提案が事務局よりあった。

運営委員会で話題に出していた秋田工業高等専門学校から各機関負担額を徴収できるのかどうかという話について、その件に関しては可能であることの報告があった。話し合いの結果、平成25年度の事業計画については原案の通り了承された。しかし、今後どういった事業をすべきか、平成21年度の申し合わせで決めた各大学負担額でよいかどうかを含めて来年度以降検討することとした。また、会議と懇親会については来年度秋田大学を会場に行うこととした。

### ③ 秋田地域留学生等交流推進会議要項・秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会

要項、秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項・秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ(案)(一部改正)

秋田地域留学生等交流推進会議事務局が平成24年4月1日から国際交流課から国際課に名称変更されたため、要項について、遡って字句を修正したい旨説明があり、了承された。

### ④ その他 なし

## (2) 報告事項

### ① 平成24年度学校等別外国人留学生受入数等について

事務局から、報告資料1に基づき平成24年10月1日現在の受入人数等について説明があった。

### ② 秋田地域における国際交流団体・外国人留学生等交流推進事業の実施状況について

事務局から、報告資料2に基づき平成23年10月1日現在の受入人数等について説明があった。

### ③ 秋田地域における国際交流団体・外国人留学生等交流推進事業の活動について

事務局から報告資料2の説明があり、各高等教育機関から報告があった。

#### 【ノースアジア大学】

現在、台中韓等5カ国から10人の留学生を受入れている。ここ数年、留学生数は増加してきたが、昨年3月11日の地震・昨今の日中間関係緊張で少なからず人数面で影響が出た。目下、中国からの留学生受入強化のため種々の試みを行っている。受入れ後は本学国際センターが、勉学と生活の両面で留学生に懇切丁寧な面倒をみていて評判が良い。留学生が東京ではなく何故、

秋田を選んだかについては、昨年の会報誌の金君の感想文に見るように、自然の美しさと人々の温かさ、じっくり勉学に励むことができる等、秋田の環境が中央にはない大きな魅力であり今後期待できる等説明があった。

#### 【秋田県立大学】

現在、大学院の学生を中心に留学生受入れを重点的に行っていること。学部学生についても是非受入枠を広げたいと考えているが、宿舍の問題があり、留学生だけを優遇する宿舍をつくるのは難しい課題を抱えている。短期研修を実施し、3週間ほど中国・アメリカに学生を派遣したが、短い期間でも効果があり、英語力とディベート力をあげたいなどモチベーションの向上につながっていること等の説明があった。

#### 【国際教養大学】

半年・1年間の交換留学生が受入留学生の多数を占めている。それ以外にもサマープログラムなどの、2～6週間くらいのプログラムで受け入れている。震災後、留学生数が落ち込み、そろそろ持ち直しに期待していたが、なかなか元に戻ってきていない。全員留学できるように、同数交換を実施できるようなバランスを保ちたいと思っている。また、来日している留学生とともに、年間300件近い交流イベントを行っている。八峰町・大仙市・男鹿市・由利本荘市と協定を結んで事業を実施し、学校訪問や地域の方々との交流、バスツアーを実施していること等の報告があった。

#### 【秋田工業高等専門学校】

現在、国費留学生とマレーシア政府派遣で8名在籍している。今年度の私費留学生については、選考基準に達していなかったため、受入れしていない状況である。東北地区の高専間で学校の枠を超えた留学生研修を今年度は八戸高専が主体となって来年1月に実施予定であることの報告があった。短期について交流が活発になっており、フランス・フィンランドと交流協定を結び、6名の留学生の受入れを行っていること等の説明があった。

#### 【秋田大学】

10月1日現在で過去最大の211名の学生が在籍していること、大学間交流協定については42大学になり、そのうち11月にはタイ・チュラロンコン大学を吉村学長が訪問し、協定を結んでいること、また数大学と協定締結準備を進めている。今年度はモンゴル科学技術大学内に海外拠点を設置し、広報拠点を設けたこと。目標である留学生数の200名越えを達成できた一方で、留学生宿舍の老朽化など宿舍問題もある。今年新しい試みとしてマンションを借り上げしていること。7月にブータン唯一の王立ブータン大学と本邦初の協定を結び、11月にシンポジウムを実施し、来年2月には保健学科の教員の派遣を予定していること等の説明があった。

### ④ 平成24年度留学生地域交流事業「第三の故郷を見つける農家民泊」の実施報告について

事務局から、報告資料5より本推進会議主催で財団法人中島記念国際交流財団助成事業に応募し、採択された助成金を基に、第1回目の「農業体験ツアー」を本年11月3・4日に、第2回目の「収穫感謝祭ツアー」を12月1日に仙北市西木町で実施した旨の報告があった。

### ④ 日本学生支援機構から留学生交流事業等について

日本学生支援機構の青田東北副支部長からも、留学生地域交流事業等について応募・東北地区の採択状況等の説明があり、今後も農家民泊事業を継続していただきたいので是非応募して欲しい旨発言があった。

### ⑤ その他 なし

### (3) その他 なし

### (4) 閉会

引き続き開催したミニレクチャーでは例年、農家民泊に協力していただいている西木町の藤井さん・門脇さんからの説明と、留学生からも参加報告を行い、温かな雰囲気となった。

その後、場所を移して行われた留学生との懇親会では、吉村昇秋田地域留学生等交流推進会議議長の挨拶の後、小間秋田県立大学学長の乾杯で始まり、参加留学生からスピーチが披露されるなど、始終和やかな雰囲気のなか行われ、盛会裏に終了した。

# 平成24年度秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会議事要旨

日 時：平成24年11月13日（火）16:10～16:50

場 所：秋田大学一般教育1号館会議室（2F）

## (1) 協議事項

### ①秋田地域留学生等交流推進会議・運営会議の統合について

秋田地域留学生等交流推進会議は、秋田県内における留学生の受入れや、交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されており、例年11月に運営委員会、12月に推進会議を開き、今後の活動について話し合い、各自で行っている国際交流の活動状況の報告・情報共有をしている。しかし、ここ数年、議事録からも伺えるように、同じ会議を2度開いている印象があり、秋田地域留学生等交流推進会議と運営委員会の統合の提案があった。会議前に各大学・事務担当者内で秋田地域留学生等交流推進会議と運営委員会を合同で行うことについても検討したが、隣県の岩手では過去に合同会議を行っていたが本来別日に行うべきものを合同で行うことについて会議で意見があり、推進会議に統合した経緯を伺ったこと等の説明があった。

審議の結果、統合案が認められ、12月の推進会議に諮ることとした。

### ②平成23年度秋田地域留学生等交流推進会議決算報告と平成25年度「秋田地域留学生等交流推進会議」事業計画（案）

協議資料を基に決算報告と平成25年度の事業計画について説明があり、原案の通り了承された。ただし、懇親会の留学生参加者数について原案以上に人数を増やせないか推進会議までに検討することとした。

なお、補足としてノースアジア大学80,000円、秋田県立大学80,000円、国際教養大学80,000円、秋田大学260,000円をそれぞれ負担していることの報告があった。委員長から各大学から納入している負担金について、現在負担していない他大学・機関でも納入が検討できないか提案があり、今年度については現実的にも会計処理上も難しいかもしれないが、持ち帰り検討することとした。

### ③平成24年度推進会議の開催日程及び提出議題等について

平成24年度推進会議の開催日程及び提出議題について協議資料3により説明があり、了承された。

### ④秋田地域留学生等交流推進会議要項・秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項・秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ（一部改正）

秋田地域留学生等交流推進会議の事務局である国際交流課が平成24年4月1日から国際課に名称変更したため、その変更に伴う一部改正手続きについて説明があり、了承された。

### ⑤その他 なし。

## (2) 報告事項

### ①平成24年度学校等別外国人留学生受入数等について

事務局から、資料1により報告があった。

### ②秋田地域における国際交流団体・外国人留学生等交流推進事業の実施状況について

事務局から資料2の説明があり、各高等教育機関から報告があった。

#### 【秋田県立大学】

専門員が2名配置されたことにより、事業内容を充実させていること、これまでの行事の報告と今後の予定行事について説明があった。

#### 【秋田工業高等専門学校】

東北地区の高専間で、学校の枠を超えた留学研修を実施しており、今年度は八戸高専が当番校で来年の1月に留学生間の交流を予定していることの報告があった。

#### 【国際教養大学】

数多くの交流事業を行っており、市町村と提携し、定期的にプログラムを開催している。特に大仙市からは職員の派遣もあり、交流事業をしていること、地域の小学校との交流事業やサテライトセンターに学生を派遣し実施している事業もあること、また学生課で実施している事業もあること等の報告があった。また、バスツアーなどに行っていること等の補足説明があった。

#### 【秋田大学】

現在、本学の大学間協定校は、前年同期から4大学が加わり、20カ国・地域40大学になったことの報告があった。さらに数大学と協定締結の準備を進めていること、また、学部間協定校は現在、7カ国・地域14学部等と締結していること、国内外の広報活動の充実によりその効果が現れてきていると思われることの説明があった。その他、留学生行事について報告があった。

#### 【秋田県】

資料に基づき次のとおり事業報告があった。

県では、県民との国際交流活動に積極的に参加しようとする私費留学生を支援する高等教育機関に助成を行うことにより、留学生と県民との交流活動を活発にすること等を目的として、AKITA留学生交流サポート事業を行っている。内容は、居住費支援と国民健康保険加入支援の2つとなっている。昨年度まで留学生へ直接補助を行っていたが、事務手続き簡略化のため、今年度から、留学生を支援する高等教育機関への間接補助方式としている。

また、環日本海圏留学生秋田発見体験ツアー事業として、環日本海地域からの留学生を県内の文化施設・観光地等へ案内し、秋田県への理解を深める事業を行っている。

### ③平成24年度留学生地域交流事業「第三の故郷を見つける農家民泊」の実施について

事務局から、資料3により本推進会議主催で財団法人中島記念国際交流財団助成事業に応募し採択された助成金を基に、第1回目の「農業体験ツアー」を本年11月3・4日に実施し、2回目の「収穫感謝祭」を12月1日に仙北市西木町で実施予定である旨の説明があった。また、12月14日の会議後、ミニレクチャーを企画していること、財団の募集が遅く今年度の計画作成に難航したこと等補足説明があった。

議長から来年度の（財）中島記念国際交流財団助成による留学生地域交流事業の募集について、今年度と同じように遅くの発表になるかもしれないが、引き続き農家民泊を申込したい旨説明があった。

### ④その他 なし。

## (3) その他

本会議は12月14日（金）16:00から「カレッジプラザ」で開催することの連絡があった。また、会議終了後、秋田ビューホテルで17:30から留学生を交えての交流パーティーがあり、留学生に一人当たり1,000円の会費負担があるが、留学生への周知と参加の協力願いたいことの依頼があった。

# 秋田地域留学生等交流推進会議要項

## (設置及び目的)

第1 秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進を図るため、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

## (事業)

第2 推進会議は、第1に掲げる目的を達成するため、秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進に関する重要事項について協議する。

## (委員)

第3 推進会議は、次に掲げる者をもって組織する。  
一 秋田地域の関係大学の長  
二 秋田地域の国・地方公共団体の関係機関、経済団体、国際交流関係団体の長又は代表者 各1名  
三 学識経験者 若干名  
2 委員は、議長が委嘱する。

## (役員及び役員の職務)

第4 推進会議に議長及び副議長を置く。  
2 議長は、秋田大学長をもって充て、副議長は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。  
3 議長は、推進会議を招集する。  
4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、議長の職務を代行する。

## (顧問)

第5 推進会議に顧問を若干名置くことができる。  
2 顧問は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。  
3 顧問は、推進会議の運営及び事業に関し、必要に応じて助言する。

## (委員以外の者の出席)

第6 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

## (運営委員会)

第7 推進会議の円滑な運営を図るため、運営委員会を置く。  
2 運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

## (事務)

第8 推進会議の事務は、秋田大学国際課において行う。

## (雑則)

第9 この要項に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

### 附 則

この要項は、平成元年10月17日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成14年9月26日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成17年2月28日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成21年12月18日から実施し、平成21年4月1日から適用する。

### 附 則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

# 秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会要項

第1 秋田地域留学生等交流推進会議要項（以下「要項」という。）第7第2項の規定に基づき推進会議運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関する事項を次のとおり定める。

第2 運営委員会の委員は、次に掲げる者をもって組織する。  
一 要項第3第1項第1号の各大学等から選出された者 各1名  
二 要項第3第1項第2号の機関等から選出された者 各1名  
三 要項第3第1項第3号の学識経験者から 若干名  
四 その他推進会議が必要と認められた者 若干名  
2 委員は、推進会議議長が委嘱する。

第3 運営委員会は、留学生等の交流推進に関し必要な事項について審議する。

第4 運営委員会に運営委員長を置く。  
2 委員長は、当分の間、秋田大学国際交流センター長をもって充てる。  
3 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。  
第5 運営委員会の事務は、秋田大学国際課において行う。

### 附 則

この要項は、平成元年10月17日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成11年10月27日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成14年9月26日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成17年2月28日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成20年12月19日から実施し、平成20年2月13日から適用する。

### 附 則

この要項は、平成21年12月18日から実施し、平成21年4月1日から適用する。

### 附 則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

## 秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ

平成21年12月18日

### (趣 旨)

1. 秋田地域留学生等交流推進会議要項第9の規定に基づき、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）の事業費に関して、次のとおり定める。

### (事業費)

2. 推進会議の運営に必要な経費は、次に定める大学が拠出する負担金をもって充てる。

大 学 名	負担金
ノースアジア大学	80,000円
秋田県立大学	80,000円
国際教養大学	80,000円
秋田大学	260,000円

### (事業年度)

3. 推進会議の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

### (負担金の納入)

4. 負担金の納入は年1回とし、納入に係る事務は秋田大学国際交流課において行う。

### 附 則

この申し合わせは、平成22年4月1日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

## 秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿

平成24年12月14日現在

区 分	所 属	職 名	氏 名
国・地方公共団体	仙台入国管理局秋田出張所	所 長	永 澤 耕 一
	秋田県	知 事	佐 竹 敬 久
	秋田県市長会	会 長	穂 積 正 志
	秋田県町村会	会 長	齋 藤 正 寧
経済団体	秋田市	市 長	穂 積 正 志
	(社) 秋田県経営者協会	会 長	藤 原 清 悦
	秋田県商工会議所連合会	会 長	渡 邊 靖 彦
	秋田県中小企業団体中央会	会 長	塩 田 謙 三
	秋田県商工会連合会	会 長	村 岡 淑 郎
	秋田県農業協同組合中央会	会 長	木 村 一 男
国際交流関係団体	(公社) 秋田青年会議所	理 事 長	進 藤 史 明
	秋田ロータリークラブ	会 員	江 畠 清 彦
	秋田国際交流団体連絡会	会 長	佐々木 正 光
学識経験者	独立行政法人日本学生支援機構	東北支部長	鈴 木 研 一
	秋田魁新報社	代表取締役	小笠原 直 樹
大学・高専	ノースアジア大学	学 長	小 泉 健
	秋田栄養短期大学	学 長	小 泉 健
	聖霊女子短期大学	学 長	平 垣 ヨシ子
	聖園学園短期大学	学 長	青 木 光 子
	秋田県立大学	学 長	小 間 篤 篤
	国際教養大学	学 長	中 嶋 嶺 雄
	秋田工業高等専門学校	校 長	山 田 宗 慶
	秋田看護福祉大学	学 長	田 中 禮 子
	秋田大学	学 長	吉 村 昇

## 秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員名簿

平成24年11月13日現在

区 分	所 属	職 名	氏 名
国・地方公共団体	仙台入国管理局秋田出張所	所 長	永 澤 耕 一
	秋田県企画振興部	学術国際局国際課長	光 永 祐 子
	秋田県市長会	事務局長	石 塚 博 史
	秋田県町村会	事務局長	藤 島 和 雄
経済団体	秋田市企画財政部	企画調整課長	本 間 斗
	(社) 秋田県経営者協会	専務理事	高 野 力 一
	秋田県商工会議所連合会	常任幹事	岩 本 孝 一
	秋田県中小企業団体中央会	事務局長	高 橋 公 悦
	秋田県商工会連合会	専務理事	松 橋 彰 雄
	秋田県農業協同組合中央会	常務理事	鈴 木 剛 人
国際交流関係団体	(公社) 秋田青年会議所	専務理事	加賀屋 久 人
	秋田ロータリークラブ	会 員	江 畠 清 彦
	秋田国際交流団体連絡会	事務局長	石 塚 則 夫
学識経験者	独立行政法人日本学生支援機構	東北支部長	鈴 木 研 一
	秋田魁新報社	専務取締役	沓 澤 伸 義
大学・高専	ノースアジア大学	留学生別科長	白 川 欽 哉
	秋田栄養短期大学	栄養学科長	廣 川 忠 男
	聖霊女子短期大学	学生部長	三 森 一 司
	聖園学園短期大学	学生部長	永 井 博 敏
	秋田県立大学	学生部長	小 林 淳 一
	国際教養大学	学生部長	森 園 浩 一
	秋田工業高等専門学校	副校長(教務主事)	脇 野 博
	秋田看護福祉大学	学生委員長	柴 田 博
	秋田大学	国際交流センター長	榎 本 克 彦



# 秋田地域留学生等交流推進会議運営による 資金貸与制度

この制度は、県内の大学・短大・高専に在籍する留学生の皆さんが、民間アパート等へ入居する際に必要となる予約金や、病気や災害などで多額のお金を一時的に必要とする場合に、経済的に困難と認められれば無利子で貸付を受けられる制度です。貸付金は、一人あたり10万円を限度としており、貸付後の翌月から10ヶ月以内の月払いで返済することになっています。また、困っている留学生から相談を受けた場合にも支援窓口関係者からご説明くださるようよろしくお願いします。

## 秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項

- 目的**  
この制度は、秋田地域留学生等交流推進会議構成員である大学・高専（以下「大学等」という。）に在学する私費外国人留学生が民間宿舎へ入居する際の予約金及び外国人留学生が緊急に必要とする資金について、申請に基づき貸与を行い、生活援助を図ることを目的とする。
- 内容**  
民間宿舎へ入居する際の予約金とは、権利金、礼金及び敷金を含み、緊急に必要とする資金とは、疾病、災害等により一時的に必要とする多額の経費とする。
- 貸与金額**  
貸与金額は、10,000円を単位とし、100,000円を限度とする。なお、利息は課さないものとする。
- 申請**  
貸与を必要とする者は、貸付金申請書（別紙様式1）を、秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。
- 選考**  
本人から提出された申請書の経済状況等を考慮し、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が選考する。
- 貸与**  
貸与は申請者が所属する大学等の長を通じて行い、貸与を受けるにあたって、借用証書（別紙様式2）を秋田地域留学生等交流推進会議議長に提出するものとする。
- 返済期限**  
貸与を受けた者は、貸与を受けた月の翌月から起算して10か月以内に返済しなければならない。ただし、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。
- 返済方法**  
貸付金の返済方法は、一括払い及び分割払い（10回を限度）とし、分割払いについては、いつでも繰り上げて返済することができるものとする。
- 返済の猶予**  
貸与を受けた者が、疾病、災害等やむを得ない事由により返済が困難になった場合は、返済猶予申請書（別紙様式3）を提出することにより返済を猶予することができる。ただし、その場合であっても、卒業又は修了等により外国人留学生の身分を失う場合は、身分喪失までに返済するものとする。
- 事務**  
貸与に関する事務は、秋田地域留学生等交流推進会議事務局である秋田大学国際課が行う。
- その他**  
この要項に定めるもののほか、貸与に関する必要な事項は、秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員長が別に定めることができる。

### 附 則

- この要項は、平成13年11月28日から実施する。
- 秋田地域留学生等交流推進会議宿舎予約金貸与制度実施要項及び秋田地域留学生等交流推進会議外国人留学生緊急資金貸付制度実施要項は廃止する。

### 附 則

この要項は、平成17年12月15日から実施し、平成17年4月1日から適用する。

### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成22年12月17日から実施する。

### 附 則

この要項は、平成24年12月14日から実施し、平成24年4月1日から適用する。

(別紙様式1)

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度 貸付金申請書

申請金額・事由 1. 予約金 2. 資金 円	
返済予定期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
返済方法	一括返済 円 × 1回 分割返済 円 × 回 円 × 1回
指導教員等の意見  (所属学部、研究科等) (職名・氏名) 印	
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付を受けたので申請いたします。 平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 申請者 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏名) 印	

(別紙様式2)

借 用 証 書

借用金額 金 円

上記金額を秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度による貸付金として、借用しました。  
については、秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項に従い、下記のとおり滞りなく返済いたします。

記

返済予定期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
返済方法	一括返済 円 × 1回 分割返済 円 × 回 円 × 1回

平成 年 月 日  
秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿  
借受人  
(所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。  
(氏名) 印

(別紙様式3)

秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度貸付金 返済猶予申請書

猶予申請事由	
返済猶予金額	円
返済猶予期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日
指導教員等の意見  (所属学部、研究科等) (職名・氏名) 印	
秋田地域留学生等交流推進会議貸与制度実施要項により、貸付金の返済を猶予していただきたいので申請いたします。 平成 年 月 日 秋田地域留学生等交流推進会議議長 殿 申請者 (所属大学等、学部、研究科等) ※学年も記入してください。 (氏名) 印	

## ■ ■ ■ 推進会議へのご意見や情報提供について ■ ■ ■

本推進会議は、秋田県内における留学生の受け入れや、交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されています。その活動状況は、毎年発行する本誌「あきた留学生交流」(毎年3月上旬発行)を通して関係の皆さまにお伝えしております。お読みいただいてのご感想や本推進会議に対するご意見がございましたら、事務局までお寄せください。

また、留学生をはじめとする外国人の皆さんやそのご家族の方々は、地域の皆さまからのいろいろな情報の提供を望んでいます。国際交流に関するイベントの実施、その他日常生活に関するささやかな情報でも結構ですので、事務局までお寄せくださるよう協力願います。



「第三の故郷を見つける農家民泊」では仙北市西木町の農家のみなさんと交流を深めた。

## あきた留学生交流 第25号

(2013.2発行)

編集・発行 秋田地域留学生等交流推進会議事務局  
(秋田大学国際課)

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号  
TEL (018) 889-2856 FAX (018) 889-3012  
E-mail kokusai@jimu.akita-u.ac.jp